

令和3・4（2021・22）年度読書活動推進事業

# 実践事例のまとめ



兵庫県マスコット はばタン



兵庫県教育委員会

## はじめに

社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となっている時代において、子ども達は、自分のよさや可能性を認識するとともに、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

こうした子ども達の資質・能力を育む上で、読解力や想像力、思考力、判断力、表現力等を養う「読書活動」の推進は欠かすことができません。その際、子ども達が読むこと自体の楽しさや充実感、満足感を得られるような取組を進めていくことが重要です。子どもの頃に読むことを「楽しかった」と感じられるような体験を積み上げていくことは、生涯にわたって学び続ける姿勢を育むことにつながります。

本資料は、令和3・4（2021・2022）年度読書活動推進事業の指定を受けた推進校13校による実践や関係市町教育委員会の取組をもとに作成した、読書活動の実践事例集です。掲載されている各実践は、子ども達に「本を読む楽しさ」を伝えようとする教職員の皆様の強い思いが感じられるものばかりですので、県内各校でも子ども達の実態に応じた読書活動を積極的に推進するための参考資料としていただきますことを願います。

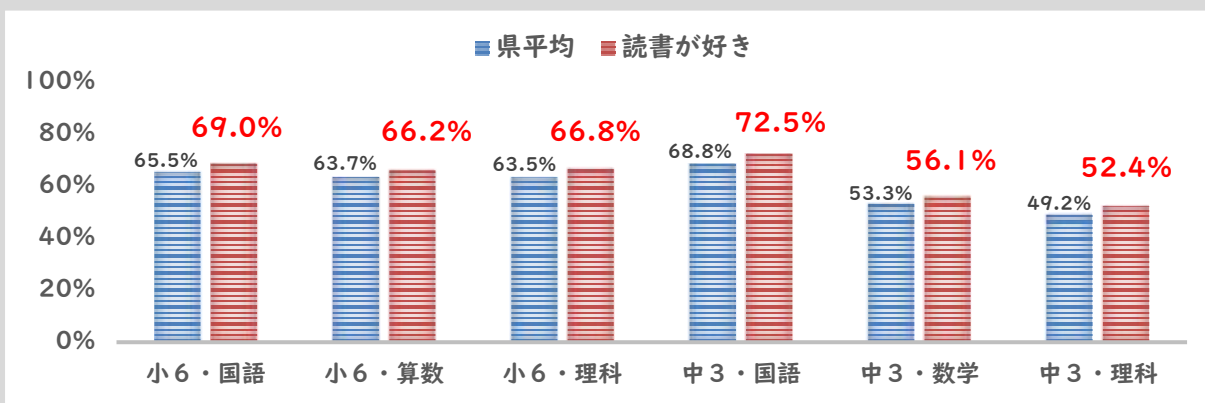
最後になりましたが、本事業にご協力いただいています姫路大学 長谷 浩也 教授、そして研究実践を進めていただいています研究推進校の教職員の皆様を始め、関係市町教育委員会の皆様に心から感謝申し上げます。

令和5（2023）年3月

兵庫県教育委員会

## 子どもの実態

令和4年度 全国学力・学習状況調査  
「読書が好きな児童生徒の正答率と県平均との比較」



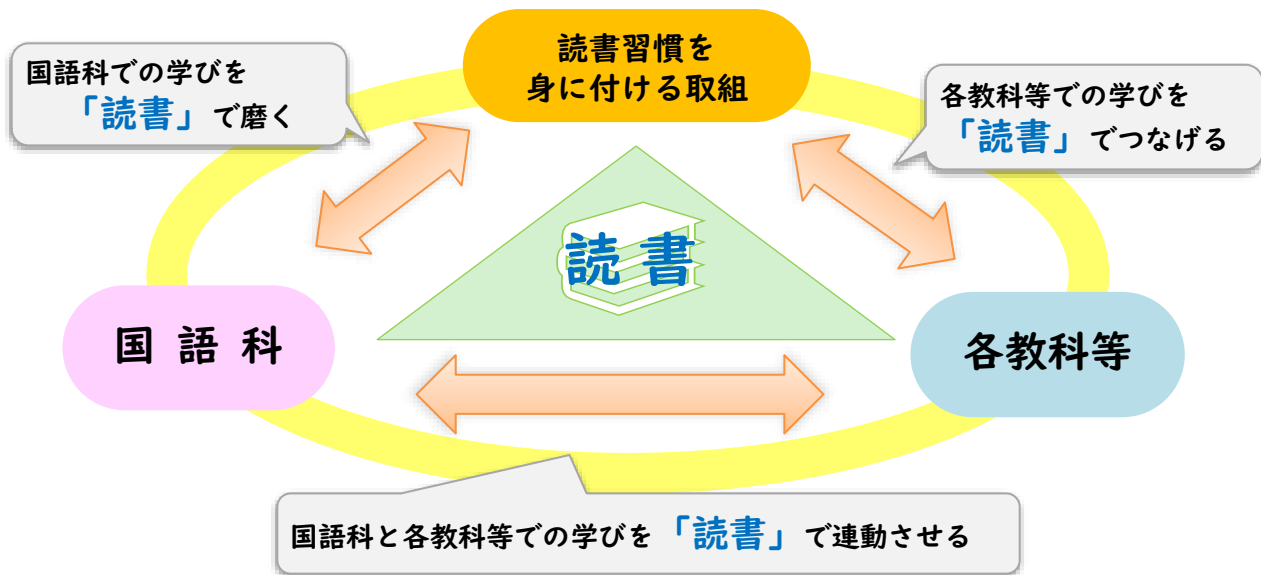
これは、令和4年度 全国学力・学習状況調査において、「読書が好きな児童生徒の正答率と県平均との比較」を表したグラフです。小学校、中学校ともに、すべての教科において、「読書が好き」※と回答した児童生徒ほど正答率が高いという結果が出ています。

おそらく、「読書が好き」と回答する児童生徒は、日常的に読書する習慣があると想定できます。この結果からは、自ら進んで読書に取り組み、多くの本と出会う経験を通して、児童生徒の言語能力や思考力が高まっていることがわかります。

※「読書は好きですか」という質問に、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒

## 学びを「読書」でつなぐ

読書活動といえば国語科という印象があるかもしれませんが、国語科での学びを読書で磨いたり、国語科以外の各教科等での学びを読書でつなげたりする等、学びを読書でつなげることが大切です。国語科と各教科等の学びを読書で連動させることで、教科等横断的な学びに発展させることも効果的です。



### 学習指導要領では…

読書活動と各教科等の学習の関係について、「各教科等を横断的に捉え、学校図書館の活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めることが望まれる（学習指導要領解説総則編）」と示されています。

## 「本を読むこと」は「自分に問うこと」 姫路大学 長谷浩也 教授

一般的に「読む」ということは、本等に書かれている事柄を理解しながら、主人公や作者の考え、生き方に会い、「そうそう」と同意をしたり、「なぜそうするのか」と異論を唱えたりしながら読み進めていく行為です。そして最終的に主人公や作者の見方や考え方も含む生き方にふれるだけではなく、自分の行動や生き方への「問い」を見つめ直すことにつながります。もちろん、様々なジャンル、内容の深浅によっても「問い」は異なってきます。

このように考えると、本に出会うということは、自分自身の考え方を振り返り、一考させてくれる仲間、先生、親等に出会うようなものであるとも言えます。

(姫路大学附属図書館ニュースレター「はま風 sea breeze」第27号から抜粋)

読み解く力がないと、感動や感激、理解が浅くなってしまいます。読書活動を通して「読解力」を育むためには、**要となる国語科と他の教科の連携を図り、読書を通じた学びの広がりを目指していくことが大切です**。そのためには「読むこと」と「問うこと」を視点に読書行為の意味を校内研修などの機会を活かして先生方で深め合うことも重要だと思います。



# 目 次

## 読書活動推進校の実践

■ 芦屋市立朝日ヶ丘小学校	5 ページ
■ 伊丹市立北中学校	11 ページ
■ 川西市立けやき坂小学校	17 ページ
■ 加古川市立加古川小学校	23 ページ
■ 播磨町立蓮池小学校	29 ページ
■ 三木市立三木東中学校	35 ページ
■ 姫路市立城東小学校	41 ページ
■ たつの市立越部小学校	47 ページ
■ 太子町立太子東中学校	53 ページ
■ 豊岡市立三江小学校	59 ページ
■ 香美町立香住第一中学校	65 ページ
■ 丹波市立青垣中学校	71 ページ
■ 南あわじ市立松帆小学校	77 ページ

## 市町教育委員会の実践

□ 芦屋市教育委員会	85 ページ
□ 伊丹市教育委員会	86 ページ
□ 川西市教育委員会	87 ページ
□ 加古川市教育委員会	88 ページ
□ 播磨町教育委員会	89 ページ
□ 三木市教育委員会	90 ページ
□ 姫路市教育委員会	91 ページ
□ たつの市教育委員会	92 ページ
□ 太子町教育委員会	93 ページ
□ 豊岡市教育委員会	94 ページ
□ 香美町教育委員会	95 ページ
□ 丹波市教育委員会	96 ページ
□ 南あわじ市教育委員会	97 ページ

# 読書活動推進校 の実践

- 国語科での読書活動を生かした授業実践
- 他教科(国語科以外)での読書活動につながる授業実践
- 読書習慣を身に付けさせる取組
- 一人一台端末を活用した読書活動

単元名

朝小2年生版ビブリオバトルにチャレンジ

教材名：お気に入りの本をしょうかいしよう（光村図書）

《単元の目標》

- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 [知識及び技能]
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 ビブリオバトルを知る。  
※自分のオススメの本を探す。
- 2 本の中から、好きのところや面白いと思ったところをメモで抜き出す。
- 3 メモをもとに、自分の紹介文を作成する。
- 4 ビブリオバトルを行い、チャンプ本を決める。

かわいいキツネが出てくるお話だよ。みんなにも読んでほしいな。



このイラストが好きで、この本を選んだんだ。みんなも好きになると思うよ。

授業のポイント

オススメの本の交流から読書の幅が広がる。

- 1分間という短い時間で本の魅力を伝えるためには、情報を厳選し、少ない情報量で効果的に伝えることが必要であることに気付かせる。
- 友達が紹介した本に興味を持ち、自分が今まで読んでことがないジャンルの本にも挑戦できるように声かけをする。

子どもたちが選んだ  
オススメの本

- ・ねるじかん
- ・どうぞのいす
- ・ちいさなちいさな  
など

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 自分が選んだ本の中で、どこが好きなのかを捉える力
- 本の魅力を伝えるためにどのような情報が必要か考える力
- オスমেの本の紹介文を作り、本の魅力を表現する力

### 具体的な取組

- 自分のオスメの本を選び、自分が好きなどころやオスメの部分をメモで書き抜く。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を整理する。
- 本の魅力を伝えるための表現を工夫し、交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

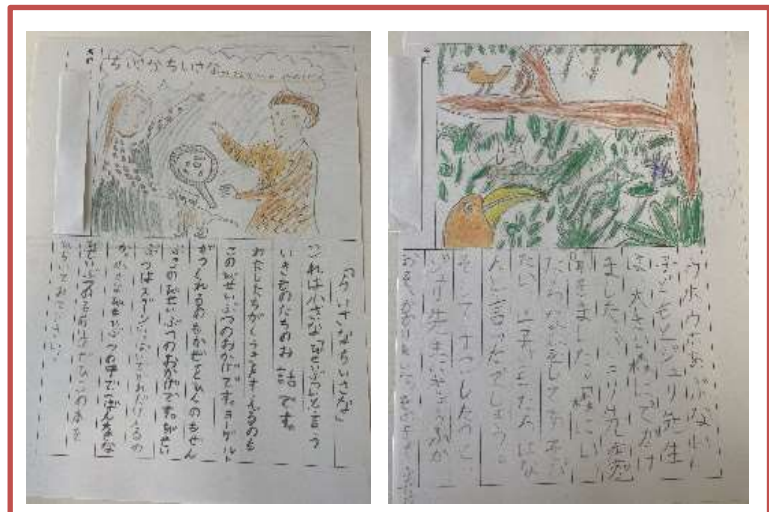
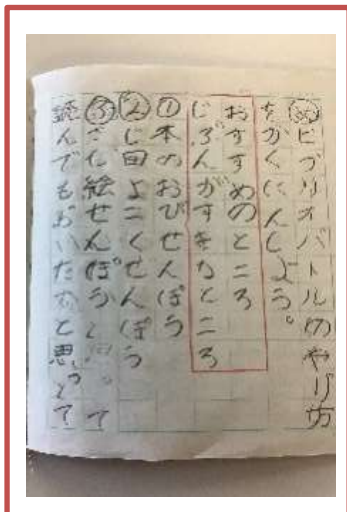
- これまでの読書の中から紹介したい本を選ぶ力
- いろいろな種類の本があることを知り、読んでみたいと思う力
- 伝えたい情報を選び、相手に伝えるように表現する力

### 具体的な取組

- 図書館に掲示してある読書の本を見て、友達のオスメの本を手にとれるように声かけする。
- 読書記録を振り返り、これまで読んでいないジャンルの本を読む。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり



### 《子どもの感想》

- ・ビブリオバトルが楽しかった！もう一回やりたい。
- ・友達のしょうかいした本がおもしろそうだった。読んでみたいと思った。
- ・いろいろな本のしゅるいがあるのがおもしろかった。
- ・図書館で本をさがすのが楽しみになった。

図画工作科

単元名 言葉から想像を広げよう！～「のはらうた」より～

《単元の目標》

- 詩の世界に浸りながら、想像を広げ、思い浮かべた雰囲気や様子を絵に表すことができる。 [知識及び技能]
- 表したいことをより自分のイメージに近づけることができるよう彫刻刀の使い方を学び、版に表すことができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 詩から想像を広げ絵に表すと共に形や表現方法を考え、より詩が生かせるように意欲的に版画に取り組もうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 学年の教室前の本棚や図工室に「のはらうた」を置いておき、いつでも手にとれる環境を作る。
- 2 「のはらうた」の中より自分が選んだお気に入りの詩について、ワークシートに書く。
- 3 作品から思い浮かんだ情景を絵に表し、版木に写して彫る。
- 4 彫った版を刷り、刷った作品の中に「のはらうた」を書く。
- 5 自分や友達作品を見合い、よさや表し方の工夫を感じ取り、ふりかえりを書く。

ぼくも小さい時にうまく言葉が話せなかったのだから、同じ気持ちだったこの詩が好きだなあ。



カタツムリの旅なのに、カタツムリと書いていない。誰の旅なのか想像力が働く。

授業のポイント

言葉から思い浮かべた雰囲気や形などの想像を広げ、作品に表す。

- 教科書以外で多くの「のはらうた」の作品に触れさせることで、児童は自分のお気に入りの作品を見付けることができる。
- 「のはらうた」の作品を何度も読み返し、友達とも意見を交流する中で、想像を広げることができることに気付かせる。



## 図画工作科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 資料から必要な情報を読み取る力
- 学習したことを自分たちの生活に生かす力
- 学習に関連する資料を収集し、自分の考えをまとめる力

### 具体的な取組

- 「のはらうた」の作品を読んでイメージしたこと、思ったことを交流する。
- 彫刻刀の種類により、彫りあとの形が違うことに気づき、表したい感じになっているか確認ながら作成する。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

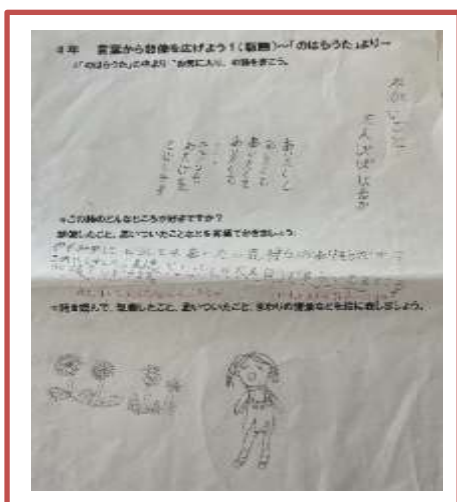
- 学習に関連する資料を収集し、自分の考えを持って読む力
- 具体的な目的意識をもって、関連する本を多読する力

### 具体的な取組

- 一つの詩、一冊の本だけではなく、「のはらうた」の複数のシリーズを用意する。
- 休憩時間でも読めるように教室前にブックトラックを設置する。
- 自分の選んだ本を班で交流する。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり



### 《子どもの感想》

- ・たくさんの詩を読んだ中からお気に入りの詩を見つけたから、イメージが沸きやすく、版画のレイアウトもしやすくなった。
- ・同じ「のはらうた」の中でもいろいろな詩があって、自分の好みや友達の好きな詩があることがわかった。
- ・読むだけで何もなくてもイメージできる詩があったり、挿絵がヒントになったりする詩があって作品につながっていくんだなあと思った。



取組名 オススメのノンフィクション作品を紹介しよう

《取組の概要》

- 市立図書館と学校図書館からノンフィクション作品を揃え、教室前のブックトラックに配架し、子ども達がそれぞれ多読する。
- 多読した中から、一番オススメのノンフィクション作品を選ぶ。
- keynoteを使って、あらすじ、オススメのポイントなどを書いたオススメカードを作成する。
- 電子黒板を使い、クラス内で発表する。

タブレット内のアプリ、keynoteを使ってオススメカードを作成する子どもの様子



取組のポイント

- 作品の中で自分が心に残った文章を引用する、キャッチコピーを書くなど、相手が興味を持ってくれるように工夫する。

どの部分も面白いから、どこを紹介しようか迷うなあ。

取組のポイント

- 読んでくれる相手を意識して、キャッチコピーを大きく分かりやすくしたり、背景と文字を同系色にしたりしないなど、レイアウトを工夫してオススメカードを作成する。

キャッチコピーを大きくして、目立つ色で囲むと分かりやすくなった！挿絵を入れると、本の雰囲気もよく分かるね！

keynoteを使って作ったオススメカードを、電子黒板を使って発表している子どもの様子



単元名

本の魅力を説得力のあるプレゼンテーションで、  
みんなに伝えよう！

教材名：ビブリオバトルをしよう（東京書籍）  
説得力のある提案をしよう（東京書籍）

《単元の目標》

- 情報の様々な表し方を理解し、わかりやすいプレゼンテーションを作成することができる。 [知識及び技能]
- 資料や機器を活用しながら、説得力のある話の構成を考え、自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 進んで読書をし、その中で言葉がもつ価値に気付くとともに、伝え合う力を磨こうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 班ごとに星野富弘の詩画集を読む。班には同じ種類の詩画集を配付する。各自、紹介文を作成し、お互いに読み合う。
- 2 班の中でプレゼンテーションの評価表に沿って評価し、書類審査を行い、プレゼンテーションのチャンピオンを決める。
- 3 班の代表に決まった人が、クラスの前で本の紹介を行う。  
自分の班からは離れ、個人で評価し、評価表をもとにクラスのチャンプ本を決定する。
- 4 最終、学年で時間を確保し、各クラスの代表が学年全員の前で発表し、チャンプ本を決める。

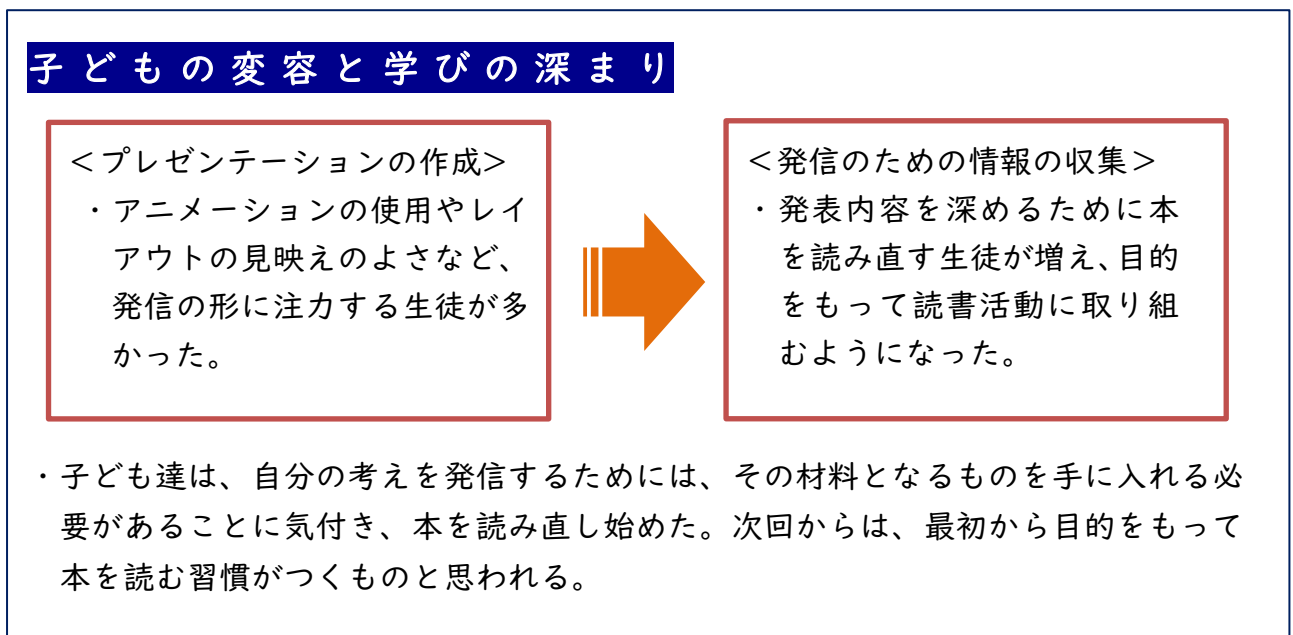
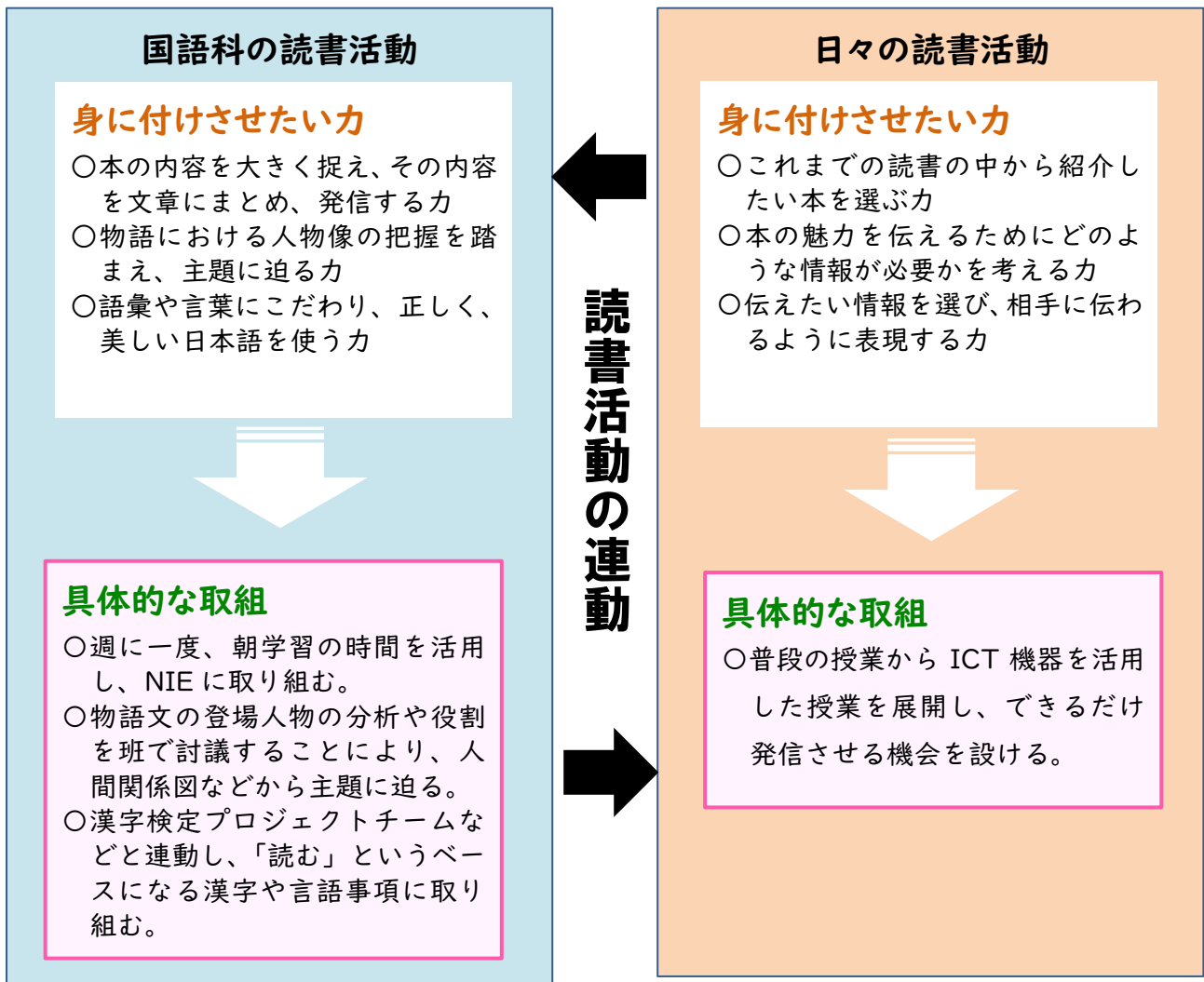
授業のポイント

同じ本を読むことで、読み方に個性があることを伝え、プレゼンテーションに適した内容などについて気付かせる

- 相手にどのように伝わるかを考えて、プレゼンテーションを工夫させる。
- 校内にある星野富弘の詩画碑の由来等とも関連させ、プレゼンテーションに取り入れさせる。

選書リスト

- ・鈴の鳴る道
- ・速さのちがう時計
- ・風の旅
- ・あなたの手のひら  
など



総合的な学習の時間

単元名 公共図書館で「トライやる・ウィーク」報告会

《単元の目標》

- 取材のスキル講座の書き方の指導を生かし、実際に実施した模擬取材の内容を、形式（モノログ、対談、ルポ）を指定したレポートを作成できる。 [知識及び技能]
- 「トライやる・ウィーク」の成果や課題について分析・検討し、公共図書館の交流フロアで報告会を実施し、一般利用者と意見交流を行う。 [思考力、判断力、表現力等]
- 報告会等の企画・運営については、プロジェクトチームを立ち上げ、自分たちで内容等も考えようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 「トライやる・ウィーク」の意義を考える。本来の意味を押さえ、自分達ができることを考える。
- 2 必要なスキル（ポスター作成）について、調べたり支援を受けたりする。  
【読書活動・調べ学習】
- 3 支援・指導を受けたスキルを使って、取材とポスター作成を行う。
- 4 学習経過や内容を展示・報告会等として、公共図書館と連携して行う。



取材スキル講座の様子

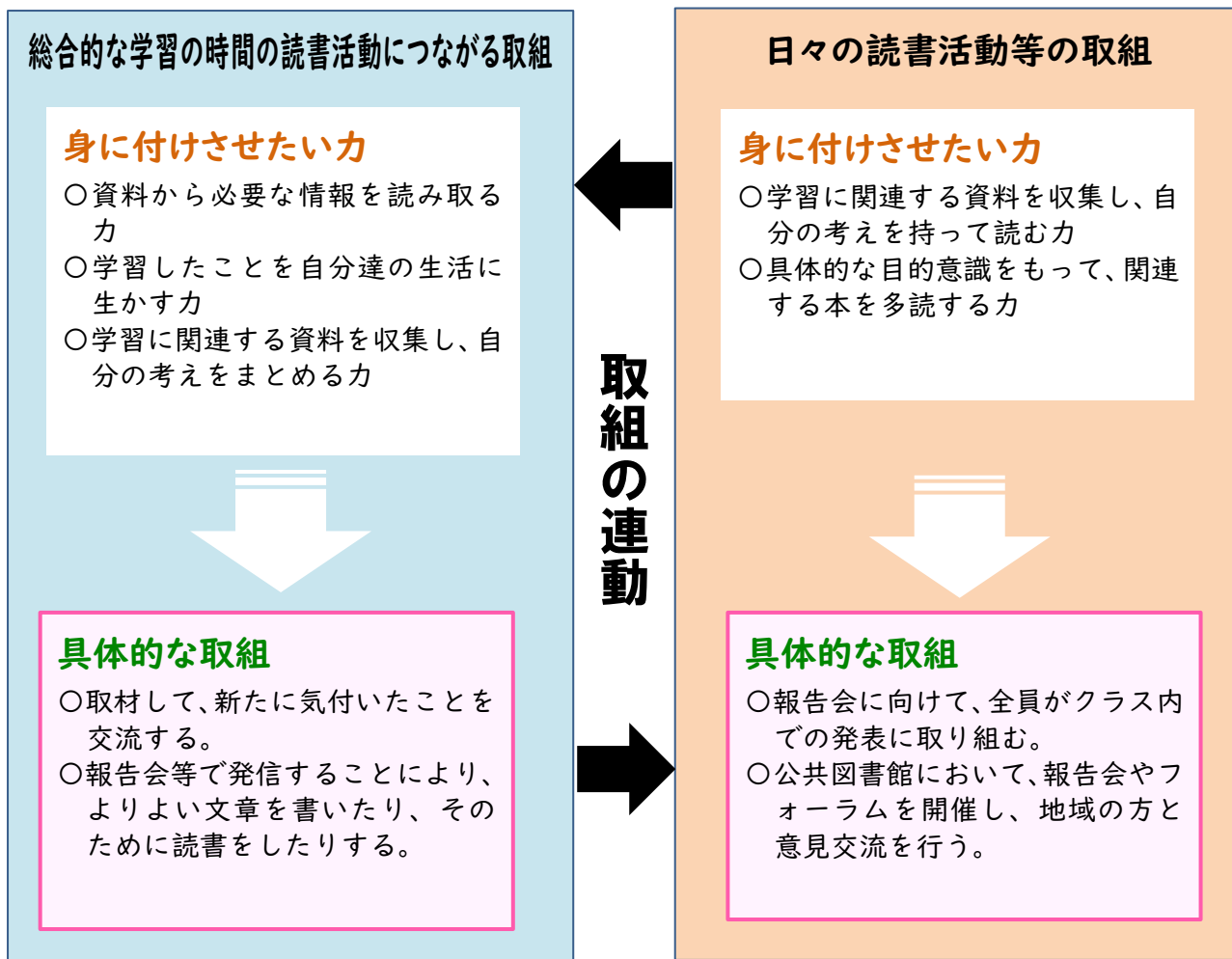


報告集会の様子

授業のポイント

活動の発信の場として、公共図書館と連携し、広く地域に学習内容を周知する。

- 活動の発信の場として公共図書館を利用することにより、公共図書館主催のイベントにも生徒が参加しやすくなるのが期待できる。
- 学校図書館や1人1台端末を活用し、調べ学習における資料の収集方法や活用方法を学ぶとともに、目的をもって読書活動に取り組むよう働きかける。



**子どもの変容と学びの深まり**

- 調べ学習等の取組により、目的意識をもって読書活動に取り組むことができるようになった。
- 生徒の読書冊数（1人当たりの月平均読書冊数）が増加した。

<p>令和2年度 4.2冊／人</p> <p>令和3年度 4.6冊／人</p>	➡	<p>令和4年度〔10月調査時現在〕 6.5冊／人</p>
---	---	-----------------------------------

- 学んだことを活用し、発信することができた。

**《子どもの感想》**

- ・取材スキルや、発信のための手段などを手に入れることができた。
- ・これからのポスター作成や、発信の方法が身に付けられてよかった。

取組名 「ことば蔵」へ行ってみよう！

《取組の流れ》

- 校区内にある公共図書館の利用をすることで、普段から本が身近にある環境をつくる。
- 様々な機会を通して、公共図書館を利用し、公共図書館に行くハードルを下げる。

取組のポイント

交流フロアの利用・企画

- 市民企画のイベント、中学生が参加できるものには積極的な参加を薦める。
- 交流フロアの運営会議に教職員が参画し、中学生の企画を持ち込む。



ギャラリーでの学校 PR

- ギャラリーを利用して、学校の PR を積極的に行う。



子どもの変容と課題

子どもの変容

- ・地域の方々から見られる機会を設けたことにより、地域での過ごし方が変わったり、挨拶を含め、これまでよりコミュニケーションを取ったりするようになった。

課題

- ・学校図書館や公共図書館の利用者は増加傾向にあるものの、生徒の読書習慣の確立のためには、読書活動に直結するような仕掛けが必要である。

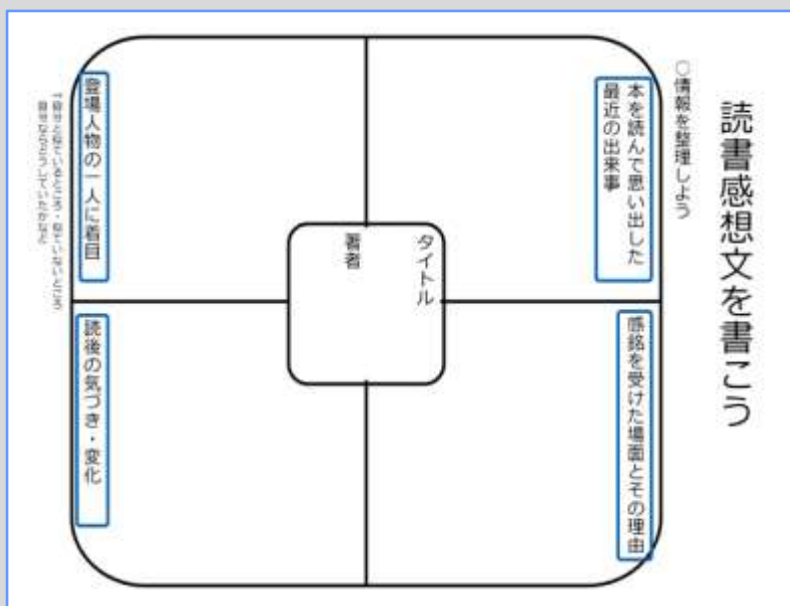


取組名 1人1台端末を活用した読書感想文の取組

《取組の概要》

- 読後にワークシートを使って、本の内容を整理し、まとめる。
- 感想文の段落の内容や構成を考え、柱立てをする。
- 感想文を書き、端末を経由して提出する。

＜読んだ本の情報を整理するワークシート＞  
 (学習支援ソフト「School Takt」で配布・共有)

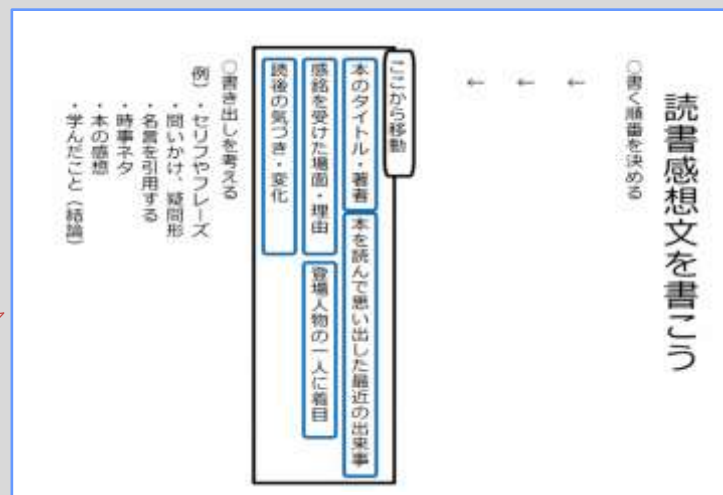


取組のポイント

- 本の内容をまとめる項目は、各自で考えるが、参考例を挙げておき、生徒が目的をもって読むための手立てとする。
- 端末を活用することで、本の内容を視覚的に整理するとともに、感想文の文章にも活用できる。

一度まとめておけば、感想文を書くときに、再度、書き直す必要がなくなる！

＜読書感想文の構成を考えるワークシート＞  
 (学習支援ソフト「School Takt」で配布・共有)



取組のポイント

- 端末上で構成を考え、文章を入力することで、段落の順序の入れ替えや文章の訂正が容易になる。

・どの段落構成が一番効果的か、並べ直しながら考えられる！  
 ・書き直しがしやすいので自分でも簡単に書ける！

単元名

なるほど!ザ・ワールド ~本が教えてくれた「わかった」を交流しよう~

教材名: はじめて知ったことを知らせよう (光村図書)

《単元の目標》

- 図鑑や科学読み物などの本の種類があることを知ったり、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いたりすることができる。 [知識及び技能]
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くことができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 図鑑や科学読み物などの読書に親しみ、本を読んで驚いたり感心したりすることを見付けたり、友達と共有したりしようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 本を読んで何かを知った時のことを思い出す。  
※読書を始める  
→読書活動推進教員が選んだ  
図鑑・科学読み物約130冊の中から
- 2 「初めて知ったこと」を知らせる  
ときのポイントを押さえる。  
→既習の「引用」を用いる。  
→知らせたい箇所を見せて示す。  
→簡単な発表メモを作る。
- 3 「初めて知ったこと」を伝え合う。  
→聞いたことについて尋ねる。



このページを見てください。私は、たった一つのドングリが大きな木に育つことに、すごく驚きました。



僕は、恐竜のことが知りたくて読んでみると、大昔の地球がとても暖かいところだったということが分かりました。

授業のポイント

「なるほど!」の交流が読書の幅を広げる。

- 自分が選んだ本の魅力を伝えるためには、一番感銘を受けた箇所に焦点を当て、絵や写真を示しながら効果的に伝えることが必要だと気付かせる。
- 伝え合いを通じて他の児童が知らせる「なるほど!」に触れ、さらにその内容について尋ねることで、自分が今まで読んでいないジャンルの本にも挑戦したいという意欲を喚起する。

児童が読んだ図鑑・科学読み物

- ・ほね
  - ・みえた!からだのなか
  - ・あっ、歯がはえてきた
  - ・タンポポずかん
  - ・ひまわり
  - ・恐竜
- など

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 登場人物等の叙述に注意して読み、行動や気持ちを捉える力
- 本や文章などから、中心となる言語や文を見付ける力
- 図鑑などから情報を得て、分かったことなどについて情報機器を用いてプレゼンする力

### 具体的な取組

- 知らせるために必要な情報の選び方や、情報の示し方を学ぶ。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を選び出す。
- 自分が感じた本の面白さの見せ方や伝え方を工夫し、交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- これまでの読書の中から紹介したい本を選ぶ力
- 本の魅力を伝えるためにどのような情報が必要かを考える力
- 伝えたい情報を選び、相手に伝えるように表現する力

### 具体的な取組

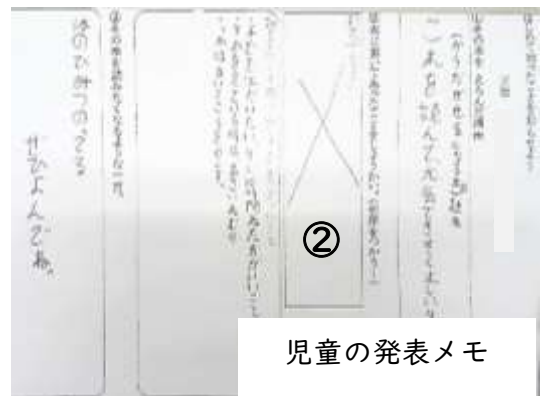
- 教科書教材と同じテーマや作者の本を並行読書する。
- 読書記録を振り返り、これまで読んでことがないジャンルの本を読む。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

### 《子どもの感想》

- ・○○さんがしょうかいしてくれた「たんぽぽ」で、今まで花びらだと思っていた黄色一枚一枚が花だということにおどろきました。ほかにもそんな花があるのか知りたくなりました。
- ・「へんな生き物図鑑」には、見た目が同じなのにちがう仲間の生き物があることが書いてあると○○さんが言っていました。どんな生き物なのか、読んでみたいなと思いました。どうやって見分けるのかも不思議です。
- ・物語の本が好きだから、こういう本はほとんど読んだことがなかった。でも、こんな分かることがいっぱいある本も面白いなと思った。



児童の発表メモ

①

子どもはだいたい、10分程度かかっている。ゆめを見ている時は、あやこもわり、ゆめは、白いところをのぞく。

① 伝えたいことを簡条書きにして発表メモにまとめた。

② 発表メモの必要がない項目については、×を入れるなど自己判断に任せました。

生活科

単元名 **どきどき わくわく まちたんけん**

教材名：どきどきわくわくまちたんけん（東京書籍）

《単元の目標》

- 自分の身近な地域にはさまざまな場所があり、さまざまな人がいることに気付くことができる。 [知識及び技能]
- 地域のさまざまな場所の利用経験を想起したり、訪れたりすることを通して身近な地域の場所と自分との関わりを見付けることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 地域の場所と人に親しみをもち、適切に接したり安全に気を付けて生活したりしようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 自分達のまちについて話し合い、学習計画を立てる。  
「けやき坂のまちにはどんなところがあるのだろうか？」
- 2 公共施設や商業施設について調べる。  
【読書活動】  
地域に現在ある施設や、あったらいいなと思う施設について本を活用して調べる。
- 3 公共施設・商業施設について分かったことを伝え合う。
- 4 けやき坂 MAP を作る。



僕らのまちにあるのは…公園・公民館・郵便局・ミニコープ！交番や消防署がないのはなんでかな？

本を使うと、知りたいことがすぐわかった。しるしをつけて、何度も見直せるようにしたよ。



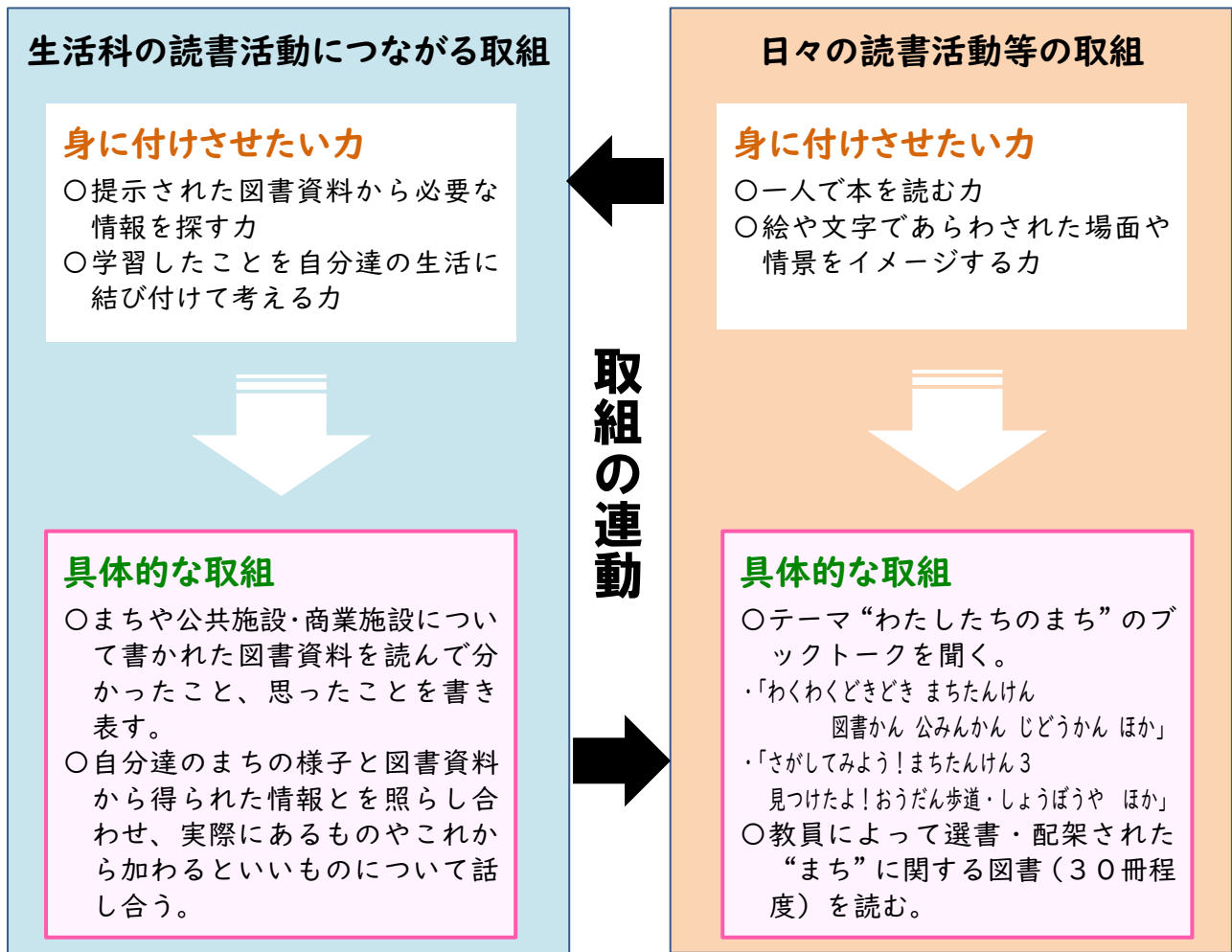
授業のポイント

体験活動では押さえきれない内容を、図書の活用で補う。

- まちや公共・商業施設、植物などについて、取り上げた図書等から情報が得られることに気付かせることで、児童の学習意欲を高める。
- 図書に掲載されている写真や説明、インタビュー内容を身近な生活に結び付けて考えさせる。

「読書」リスト

- ・名人はっけん！まちたんけん
- ・さがしてみよう！まちたんけん
- ・学校のまわりの植物図鑑



## 子どもの変容と学びの深まり

### 《子どもの感想》

- ・本でしらべた図書かんのことと、中おう図書かんのし書さんから聞いたことで、同じことがいっぱいあったからびっくりした。
- ・本でしらべたら、おまわりさんは、パトカーやバイクでパトロールしていることがわかりました。でも、なんでけやき坂にはこうばんがないのかふしぎです。
- ・けやき坂には19こも公園がありました。いろんな木や花がありました。名前がわからないものを図書しつでしらべたら、わかりました。
- ・図書かんのことをしらべたけど、本にはおみせとかものっていたから、つぎはおみせとかをしらべたいと思った。

取組名 読書の輪よ、広がれ！「福ブックろ」&カバーdeしおり

《取組の流れ》

- 日ごろから、貸出処理の際に「今月は○冊借りていますよ」と一人一人に声をかけるように図書委員会で確認し活動する。
- イベント月の貸出冊数が5冊を超えた児童に対し、図書委員が表彰状と福引券を手渡す。また、表彰された児童の一覧を図書室や各学年に掲示する。
- 図書委員は、年度内に新しく入った本の中から自分たちが選書した本を包装・ナンバリングしたり、それらのブックカバーでしおりを作成したりする。
- 図書委員が福引イベントを運営。作成したブックカバーしおりは、福引イベント終了後にイベント参加へのお礼を兼ねて各教室へ届けに行く。

取組のポイント

よく本を読む児童を紹介する

- 図書委員の日ごろからの「今月○冊借りていますよ」の声掛けだったり、多読している児童を紹介したりすることにより、児童の自分自身の読書に対する関心を高める。



福引により読書の幅を広げる

- 福引の景品を本の追加貸出しにすることで、図書室に入って日が浅い本や日ごろあまり読まれていない本を紹介し、児童の読書の幅を広げる。



「書評」を本に貼る

- よく読書する児童がつけた「書評」を表紙に貼り付けて書架へ入れることで、その本への興味付けを図る。
- 本の感想等を伝え合うことの楽しさに気付かせる。



子どもの変容と課題

子どもの変容

- ・「福ブックろの本が面白かった。いつもと違う棚の本も読んでみたくなった。」と、新たなジャンルへ読書を広げようとする児童が増えた。

課題

- ・日ごろから図書室への来室機会の少ない5・6年生に対しての手立てにはなり得ていなかった。わずかな時間であっても高学年が通いたいと思える図書室づくりを検討していく必要がある。

取組名 タブレットで広げる読書～ことばの面白さを共有しよう～

《取組の概要》

- 「多くの本に出会うには冊数や時間など制限がある」という課題を全体で確認し、タブレットを活用して本の面白みに触れたり共有したりすることを目的に学習計画を立てる。
- 「ことばの面白さ」というテーマの下、反復・韻を踏むなどの作品に施された技巧に限らず、レイアウトや挿絵に表された本ならではの工夫も含め、児童自らが過去の読書履歴を遡ったり、該当の書架から選び出したりして選書する。
- 「ことばの面白さ」を表した本の1ページをタブレットに記録しプレゼンする。

ことばの面白さにあふれた本を、友達と協力してタブレットに記録している児童の様子



取組のポイント

- 「ことば」というテーマに沿って、既習の日本十進分類表や図書ラベルの知識を活用して選書していく。「ことばの面白さ」に出合った際には、どんどんタブレットに記録を残すことで、遡って読み返したり比較したりしやすくなる。

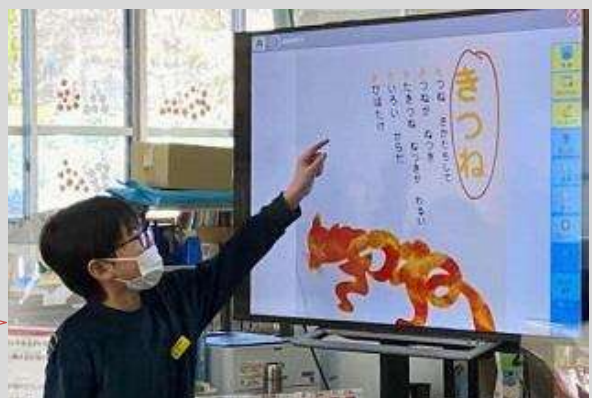
協力して記録し合う際に、友達が選んだ1冊を交換し、手にしてゆっくりと読む機会も生まれました。

取組のポイント

- 個々のタブレットに発表者の情報を送るのではなく、大画面に映し出し互いに顔を見合いながら伝え合う。タブレットはツールであり、個々の活動に終始してしまわないように意識して活用する。

本だと小さくてみんなには見えづらかったり、直接書き込むことができなかったりするけれど、タブレットだとそれらの問題が解決します。

自分が選んだ「ことばの面白さ」が表れている1ページをプレゼンする児童の様子



単元名 作家に着目して読み広げ、本を紹介しよう。

教材名：カレーライス（光村図書）

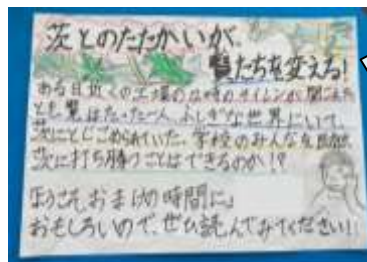
《単元の目標》

- 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができる。 [知識及び技能]
- 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをポップにまとめることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 学習計画を立て、学習の見通しをもつ。（並行読書の開始）
  - ・様々な作家とその作品を知る。
- 2 「カレーライス」を読んで感想を出し合い、作家や作品の魅力について話し合う。
- 3 作者に着目したポップやそれに添えるキャッチコピーの書き方を確かめる。
  - ・「カレーライス」で試作。
- 4 自分が選んだ作家をもとに本を決め、ポップを書く。
- 5 ポップを読み合って、友達と感想を伝え合う。

《ムーブノートで各自がキャッチコピーを作成》  
作者の重松清さんが「カレーライス」で一番伝えたいことを、ぱっと印象づける言葉はなんだろう。



《仕上がったポップ》  
一人の作家で複数の作品を読んだ後、ポップを作成しました。作家の特徴を捉え、友達に興味をもってくれる工夫をしています。

授業のポイント

作家を意識して読み広げるには、どうすればよいか。

- 学年で作家を意識して読む児童は2%に過ぎなかった。単元の導入にあたってまず自分達が知っている作家をたずね、おすすめの作家を紹介した。できるだけ多くの作品を紹介し、読んでみたくなる仕掛けを行った。
- 長い作品を自分で読みこなせない児童もいる。そこで朝読の時間に重松清の短編集を担当が読んでいった。読んでもらうことで内容が分かり関心をもつことができた。また、作家の魅力にも気付けるようになっていった。

紹介した作家

- ・重松清
- ・さくらももこ
- ・岡田淳
- ・斉藤洋
- ・令状ヒロ子
- ・茂市久美子
- ・今森光彦
- ・上橋菜穂子
- ・ヨシタケシンスケ
- ・富安陽子
- ・角野栄子
- ・宗田理
- ・斉藤倫
- ・廣嶋玲子



## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 主人公と自分を重ねながら心情を理解し、その変化を捉える力
- 重松清らしい作風や表現の仕方を、作家の魅力として捉える力
- 作家の特徴や世界観を読書によって感じ取り、その魅力を端的な表現で伝える力

### 具体的な取組

- 重松清の短編を、朝読の時間を活用して複数紹介し、作風をつかみややすくする。
- 端的に相手に伝える方法として、キャッチコピーを紹介し、魅力を表す言葉をつかみ、書き方を学ぶ。
- 本の魅力を伝えるための表現方法を工夫し、交流することで、それぞれの感じ方や違いを認め合う。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 作家で本を読むという、新たな本の選び方の視点をもつこと
- 同じ作家の作品を数冊選び、最後まで読み抜こうとする力
- 様々なジャンルの作品や作家に関心を持ち、読書の幅を広げようとする力

### 具体的な取組

- 学年のチャレンジブックリストにおすすめ作家の作品を選ぶ。
- 14人の作家を選び、作家ごとに作品をブックトークする。
- 学年のブックトラックで紹介した本を置き、朝読などいつでも読めるようにする。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

何をもとに本を選びますか (R4.7月)

題名	61%
さし絵やその量	17%
文字の大きさやページ数	11%
すすめられて (紹介文)	9%
作家	2%

作家で選ばない理由として、「作家など意識したことはない」という意見が多かった。

何をもとに本を選びますか (R4.11月)

題名	45%
さし絵やその量	22%
作家	18%
文字の大きさやページ数	8%
すすめられて (紹介文)	7%

授業をきっかけに、作家で読むことがある、作家が気になる児童は18%となった。

### 《子どもの感想》

- ・今まであまり作家を選んで本を読んだことはなく、誰が書いたかなど気にしませんでした。重松清さんの作品は、自分にもありそうなふつうのできごとが書かれていて、結末を読者に考えさせるようなものが多く、同じ重松さんの本をもっと読んでみたいと思いました。
- ・私が好きな作家は茂市久美子さんです。茂市さんの作品は想像を広げるような本がたくさんあるので好きになりました。作家で本を選ぶと、本が苦手な人でも「この本なら読める！」と思って好きになるのではないかと思います。

総合的な学習の時間

単元名

わたしたちの平和宣言をつくろう

—平和な未来をつくるために、わたしたちにできること—

《単元の目標》

- 日本の歴史から戦争について学び、平和な国や世界をつくるためにどのような取り組みを行ってきたかを調べる学習を通して、平和への理解を深めることができる。  
[知識及び技能]
- 平和への学びを通して、安心してくらす平和な世界をつくるために、未来に向けて自分たちにできることを考え発信することができる。[思考力、判断力、表現力等]
- 様々な戦争資料に触れ、広島を訪れて体験したことを重ね、過ちを繰り返さぬ平和な世界をつくるために意欲的に追究しようとする。[学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 平和について調べる  
【読書活動】  
世界を取り巻く様々な課題を調べ、平和なくらしとは何かを考え、世界の現状に目を向ける。
- 2 修学旅行で訪れたい戦争遺構を調べる  
【読書活動】  
様々な資料をもとに訪れたい場所について調べることで主体的な学びにつなげる。
- 3 「私の平和宣言」をつくる  
学んだことを生かし宣言文にまとめる。
- 4 平和をつなぐ  
一年間の学びを発信する。

平和学習に関する資料が学年の廊下に置いてあるので、使いたい時にすぐに利用できました。



《児童のワークシート》

原爆ドームの資料には、保存反対の意見もあったことやある日記がきっかけで保存運動が始まったことなどを丁寧に書き込んでいます。

授業のポイント

戦争や世界の課題を自ら追究することで主体性をもたせる。

- 戦争や環境、貧困など平和を広義でとらえ、様々な資料を提示することで主体的に学べる環境を整える。
- 大きなテーマであるからこそ漠然としたものではなく、加古川市もかつて戦争の時代があったことや全国の10代が取り組む平和活動を参考にしながら、自分の平和宣言につなぐ。

「読書」リスト

- ・ヒロシマ消えた家族
- ・ヒロシマを残す
- ・戦争体験を「語り」・「継ぐ」
- ・聞かせて、おじいちゃん

## 総合的な学習の時間の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 平和・戦争に関する情報を主体的に収集できる力
- 資料をもとに、必要な情報を取り出して活用する力
- 本や資料から自分の考えをもち、さらにその考えを深める力

### 具体的な取組

- SDGsや広島資料から、調べたいことに活かせる資料を集める。
- 修学旅行で訪れた場所や語り部の方の話から、体験によって自分の考えがどう変化したかに気づき、まとめることができる。
- 平和宣言に向けた自分の考えや行動を読書によってさらに深める。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 自分が調べたい内容について、様々な資料を収集したり、それらを使って調べたりまとめたりする力
- 資料から情報を得るだけでなく、それらに関連させ自分の考えを補うことができる力

### 具体的な取組

- SDGs（環境、貧困、ジェンダー等）や平和につながる多くの資料を読み、多様な視点をもつ。
- 平和宣言が形式的なものに終わらないよう、様々な学校が取り組む具体的な行動が掲載されている本を読み、自分ができていることを考える参考とする。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

- ① 戦争・平和に関心があり調べたり本を読んだりしたことがあった。
- ② 関心はあったが調べたり本を読んだりしたことはない。
- ③ 特に関心はない。

★事前調査では、①は19%であった

修学旅行で見たり聞いたりしたことは、調べたこと以上によかった	98%
本やネットで調べたことが役立った	97%
もっと平和や戦争についての本を読みたいと思った	82%

調べ学習が有意義であり、現地での体験がそれを上回ったことが探究学習を価値

### 《子どもの感想》

- ・平和学習をしてきて、僕は平和に対する思いが変わりました。広島に行くために調べ、訪れたことで戦争の恐ろしさや平和の大切さがわかりました。特に平和には戦争や人権も含まれていて、そのすべての観点に目を向けないと本当の戦争がわからないと思いました。
- ・私は一学期から主に平和について調べ学習を行いました。実際に訪れて、あちこちに飾ってある千羽鶴は人々の思いの結晶だと思いました。平和記念資料館の見学や語り部さんのお話を通して、何も悪くない人々が一番犠牲になったとわかりました。

## 取組名 図書ボランティアによる「第6回ブックフェア」

### 《取組の流れ》

- 読書週間の時期に合わせ、11月の1か月間で自分が挑戦する読書の目標を設定する。(例：1か月で15冊の絵本を読むなど)
- 読んだ本をカードに記入していき、目標が達成出来たら、プレゼント交換日に、図書ボランティアさん手作りのプレゼントと交換してもらえる。

### 取組のポイント

#### 自分で目標を立てる

- 過去5年間は、学年の教員に達成目標を設定してもらっていた(例：高学年 小説6冊など)が、高学年では最初から読むのは無理だと諦め、まったく参加しない児童もいたため、今年度から自分の目標を達成することとした。6年生なら、例えば「ハリーポッター3巻まで読む」でも構わない。誰もが自分の目標に挑戦し、読むことの楽しさを重視することとした。



#### 保護者との連携

- 低学年は、おうちの人と一緒に読んでもいいことにした。加古川市が提唱している「家読(うちどく)」を本校でも呼びかけており、家でも一緒に読んだり、本を選んでもらったりすることで、家庭の話題にしてほしいと考えた。



### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・この活動は6回目となる。毎回手作りのプレゼントを心待ちにする児童も多く、にぎわう1か月となる。今年は児童自らが設定した目標に挑戦となった。読書が苦手な児童も大好きな児童も、みんなが参加でき、どうせ無理だからと関心をもてなかった児童も、進んで借りに来る回数が増えた。今年はボランティアさんによる広報活動も活発で、家庭でも話題にさせていただくことができた。

#### 課題

- ・委員会で行うスタンプラリーでも同様であるが、その期間を過ぎると急に貸し出しが減ってしまう。プレゼントが目標になるだけでなく、自分で決めた読書目標が達成できたことを十分に認め、そこから読書への興味関心に引き込むことが大切だと感じる。

## 取組名 読書手帳を電子化し、My読書手帳をつくる

### 《取組の概要》

- 手書きの読書手帳を、ICTサポーターとともに電子化することで簡素化し、読書記録を残し、読んだ本を集める楽しさをもたせる。
- 各自の端末に配布された読書手帳をもとに自由に記入する。手帳の内容は、題名と日付、読んだ本の画像と“いいねポイント”をスタンプで表示する。感想を書きたい児童は、自由に記入できるようにする。高学年は著者名も付け加えた。
- 月に一度、作成している手帳を提出したり、友達同士で見せ合ったりして、本の情報を共有し合う。

各自の端末に、読書記録を書き込む児童の様子



### 取組のポイント

- 手書きが苦手な児童も、写真を撮って、スタンプだけで簡単にコレクションが増える。逆にコメントも書きたい児童は、書く欄を広げるなど、自由にカスタマイズできるようにする。3年生以上はスプレッドシート、低学年はスカイメニューの発表ノートで作成した。

この本は、とってもおもしろかったので、「いいね」を最高の5つにしよう！

### 取組のポイント

- 電子化すると本の画像（表紙画のみ）を記録できるため、残す楽しみが増える。それらを互いに見せ合うことで対話が生まれ、本への興味が高まり、読書の広がり期待できる。

友達に、読書手帳を見せてもらいました。もう17冊も残っていて、おどろきました。「いいね」スタンプが5つついている本があって、わたしも読みたくなりました。

友達と読書手帳を見せ合い、お互いに読んだ本を紹介している様子



単元名

友達とビブリオバトルをしよう

教材名：この本、おすすめします（光村図書）

《単元の目標》

○目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係づけたりして、伝えたいことを明確にすることができる。

[知識及び技能]

○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見を区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけようとしている。

[学びに向かう力・人間性等]

《学習の流れ》

- 1 ビブリオバトルについて知る。  
※動画でビブリオバトルを視聴する  
※選書を始める
- 2 ビブリオバトルに使う本を読む。  
※伝えたいことを下書きする
- 3 ビブリオバトルの原稿を作成する。
- 4 ビブリオバトルの練習をする。
- 5 ビブリオバトルで本を紹介し合う。  
※チャンプ本を決める

「絵はないけど、だからこそ、自分の好きなように想像してできる。」というのがすごく共感できました。



自分でもこの本を紹介できてよかったと思いました。またやりたいです。



授業のポイント

ビブリオバトルで読書の幅を広げる

- ビブリオバトルで本の魅力を伝えるためには、時間を意識し、自分が面白いと思ったことを中心に原稿を作成するとよいことに気付かせる。
- 他の児童が紹介した本をもとに、それぞれの児童が今まで読んでことがないジャンルの本にも興味を持てるようにする。

ビブリオバトルに使用した本の例

- ・星を追う子ども
- ・ハリーポッターと賢者の石
- ・フラッシュメモリのひみつ

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 登場人物等の描写に注意して読み、文章に表れているものの見方や考え方を捉える力
- 本や文章などから目的に応じて必要な情報を読み取る力
- 紹介したい本のビブリオバトルを行い、本の魅力を表現する力

### 具体的な取組

- 作品のテーマや作者が伝えたいことの読み取り方を学ぶ。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を整理する。
- 本の魅力を伝えるための表現を工夫し、交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- これまでの読書の中から紹介したい本を選ぶ力
- 本の魅力を伝えるためにどのような情報が必要かを考える力
- 伝えたい情報を選び、相手に伝えるように表現する力

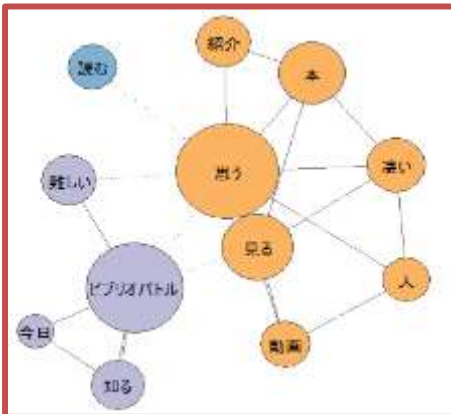
### 具体的な取組

- 教科書教材と同じテーマや作者の本を並行読書する。
- 読書記録を振り返り、これまで読んでことがないジャンルの本を読む。

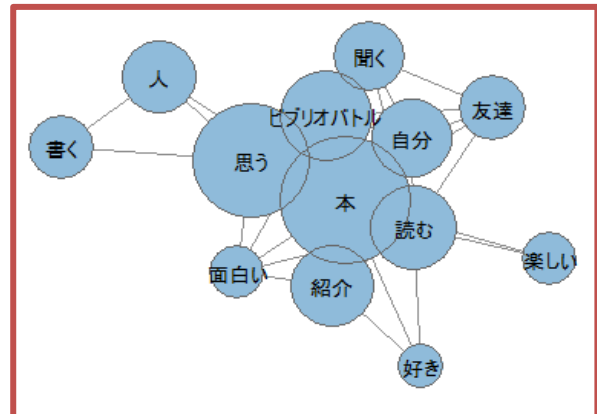
読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

■ビブリオバトルの動画視聴後（単元冒頭）



■ビブリオバトル実施後（単元終末）



<共起ネットワークからの分析>

単元冒頭では「凄い」という単語が出てくる等、まだ「ビブリオバトル」を自分事と捉えていない状況が読み取れるが、単元終末では、「本」と「ビブリオバトル」が密接に関わっており、その周囲には「楽しい」、「面白い」、「好き」等の肯定的な単語が配置されている。

### 《子どもの感想》

- ・みんな楽しい本を紹介してくれたので、飽きずに聞きました。僕は、科学の漫画や本しか読みませんが、友達の発表を聞いて、怖い本も読んでみたいくなりました。ビブリオバトル、面白かったです。

総合的な学習の時間

単元名 戦争について知り、平和の尊さについて考えよう

《単元の目標》

- 日中戦争や我が国に関わる第二次世界大戦などを手掛かりに、我が国と中国との戦いが全面化したことや、連合国との戦いによる敗戦、広島・長崎への原爆投下など大きな被害を受けたことなどを理解できる。 [知識及び技能]
- 我が国の歴史上の主な事象について、世の中の様子、代表的な文化遺産に着目して、地図や年表などの資料で調べたり聞いたりして、我が国の政治や国民生活が大きく変わったことを考え、表現できる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 主体的に学習問題を追及・解決しようとする。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 語り部のお話を聴く。
- 2 修学旅行で広島市の平和記念公園を訪れる。
- 3 戦争に関する本を読む。【読書活動】
- 4 知ったことや考えたことを、スライドにまとめる。
- 5 まとめたことを発表する。

私達がこのスライドを作ってみて、やっぱり一人一人の命、心を大切にしていけないと思いました。人の命は価値にはできないものです。



私達が学んだことは、3つあります。1つめは戦争という過ちを二度と繰り返してはいけないことです。2つめは戦争のない世界を作るのは私達だということです。3つめは戦争は多くの人にとって大きな悲しみをあたえることです。

授業のポイント

学習に沿って効果的に本を活用し、学習理解を深める

- 教科書以外の本等から新しい情報が得られることに気付かせることで、子どもの学習意欲を高める。
- 教科書以外の本等で見つけた情報のおかげで、より深く考えることができることに気付かせる。

「読書」リスト

- ・戦争とくらし百科
- ・戦争とくらし
- ・わたしたちの戦争体験



## 総合的な学習の時間の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 資料から必要な情報を読み取る力
- 学習したことを自分達の生活に生かす力
- 学習に関連する資料を収集し、自分の考えをまとめる力

### 具体的な取組

- 本を読んで分かったこと、思ったことをまとめる。
- 社会科の教科書と本の内容とを照らし合わせながら学習を進め、平和の尊さについて深く読み取る。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 学習に関連する資料を収集し、自分の考えを持って読む力
- 具体的な目的意識をもって、関連する本を多読する力

### 具体的な取組

- 戦争や平和について書いた本を読み、考えを深める。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

### 《子どもの感想》

- ・学習をして、私達にできることは、次の世代へと戦争や原爆についてのことを語り継いでいき、平和のバトンをつなぐということではないでしょうか。
- ・私達にできることは人との関わりを増やし、いろいろな人に優しくすることだと私達は考えました。
- ・私達は国を動かすほどの権力はないけれど、一人一人が戦争がなくなりますようにと願うことが大切だと思いました。



平和学習の様子



関連する本をまとめて配架

## 取組名 先生からのおすすめ本を読みすすめよう

### 《取組の流れ》

- 教職員が読んだ本のおすすめポイントを掲載し、本の帯のようにして提示する。
- 児童が図書室の時間や休み時間に掲示物を目にすることで、読書のきっかけとなるようにする。
- 読書に関するアンケートをとる。

### 取組のポイント

#### 読んだ本を紹介する

- 教職員が本を読んでいる姿を見せることで、子どもにも興味を持たせ、読書のきっかけとなるようにする。

#### 図書室に掲示する

- 教職員が紹介した本を紹介し、興味があれば読んでみるように伝え、読書の幅が広がるように支援する。



### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・「先生が紹介していた本を、読んでみたい」と声をかける児童や、友達同士で本について話す児童が増えた。

#### 課題

- ・続けていると関心が薄れるので、読書活動推進教員や担任から「読書の木」について話題を出し、活動の活性化を図る必要があった。

## 取組名 読み聞かせ動画の作成

### 《取組の概要》

- 図書委員会が作成した読み聞かせ動画を、給食の時間にクラスのテレビで見ることができるようにする。
- 低学年から高学年まで親しめるような本を選書し、読み聞かせの練習をしてビデオ撮りする。動画の作成は、タブレット端末の編集ソフトを用いて、図書委員会自らで行う。
- 読み聞かせ動画の作成は図書委員会の活動として計画的に進める。

読み聞かせ動画を撮影する図書委員会の児童の様子



### 取組のポイント

- 読み聞かせの内容は図書室の本を中心に選定し、低学年向けのものから高学年向けのものまでバランスよく選書していく。

やっぱり高学年のお兄さんやお姉さんは読むのがうまいなあ。そして、いろいろなお話があるんだな。

### 取組のポイント

- 図書委員会で過去の動画の出来栄えを分析し、次の動画を作成する際には、どの学年にも見やすい動画になるように取り組む。

動画作成は、相手に内容を伝えやすく、見た人の評価も高いものを作るんだ！  
私もチャレンジしてみよう！

読み聞かせ動画を編集する図書委員会の子ども様子



単元名 本の紹介合戦をしよう

教材名：読書を楽しむ（光村図書）

《単元の目標》

- 本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 [知識及び技能]
- スライドづくりを通して、本を読み考えたことなどを伝え合う力を高め、自分の考えを確かなものにするすることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、進んで読書をし、思いや考えを伝え合おうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 自分がこれまで読んだ本の中から紹介したい本を決めておく。
- 2 4～5枚以内のスライドを準備する。
- 3 班で発表し合う。
- 4 クラスの代表を決め、代表はお昼の放送で全校生徒に本を紹介する。

友だちに自分のお気に入りの本の魅力を伝えるために、効果的な紹介の仕方を考えました。



全校生徒に自分のオススメの本を知ってもらうために文章を何度も考えました。読み方も工夫しました。

授業のポイント

本の紹介を通して読書の幅が広がる

- 限られたスライドの枚数で本の魅力を伝えるためには、情報を厳選し、紹介の仕方を工夫する必要があることに気付かせる。
- 生徒が紹介した本を全校生徒にも紹介し、今まで読んだことのないジャンルの本にも挑戦するように促す。

選ばれた本のリスト

- ・Wonder
  - ・ゴールデンスランバー
  - ・星の王子さま
- など

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 登場人物等の描写に注意して読み、文章に表れているものの見方や考え方を捉える力
- 作者が表現したい内容を読み取る力
- 紹介したい本のスライドを作り、本の魅力を表現する力

### 具体的な取組

- 作品のテーマや作者が伝えたいことの読み取り方を学ぶ。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を整理する。
- 本の魅力を伝えるための表現を工夫し、交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- これまでの読書の中から紹介したい本を選ぶ力
- 本の魅力を伝えるためにどのような情報が必要かを考える力
- 伝えたい情報を選び、相手に伝えるように表現する力

### 具体的な取組

- 読書記録をつけ、自分の読書の傾向を知る。
- 朝の放送朗読により、様々なジャンルの本を知り、読書の幅を広げる。
- 図書室の利用を増やす。

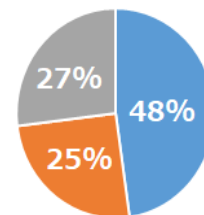
読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

R3. 4月から読書活動の推進を開始



朝の放送朗読などの読書活動推進により読書の時間は増えましたか



■ はい ■ いいえ ■ どちらでもない

### 《子どもの感想》

- ・友達の紹介を聞いて、自分がこれまで読んでこなかった本を知ることができた。新しいジャンルに挑戦したいと思う。
- ・スライドにまとめるのは難しかったけど、自分が友達に知ってもらいたいセリフを選んだり読んだりして、友達に興味をもってもらえるように工夫ができた。
- ・友達が好きな本を知ることができてよかった。本について話したいと思う。

英語科

単元名 多読で英語の力を伸ばす

教材名：Graded Readers

《単元の目標》

- 目と耳から質の高いインプットを大量に受けることで4技能の力を伸ばす。  
[知識及び技能]
- 英語のリスニングを聞き、発音や抑揚等、英語での表現の仕方を知り、スピーキングに生かすことができる。  
[思考力、判断力、表現力等]
- 難しい絵本に挑戦し、英語力向上のために積極的に読書に取り組もうとする。  
[学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 様々な難易度の英語の絵本を用意しておく。
- 2 ALTに絵本の朗読をしてもらい、タブレット端末にデータを保存し、生徒が聞くことができるようにしておく。
- 3 生徒自身が自分の難易度に合った絵本を選び、朗読を聞く。

【読書活動】

- 4 読書カードと振り返りシートに記入する。

様々な難易度の英語の絵本。生徒は自分の難易度に合った本を自由に選ぶことができる。



ALTの朗読を聞く。聞き取りにくかったところは何度も聞き直すことができる。

授業のポイント

自分の興味と難易度に合った本を自分で選ばせる

- 自分に合わないものは途中でやめてよい。読む楽しさと達成感を感じさせる。
- 難易度の基準はスラスラ読める内容の本を選ぶこと。多読になるように大量のインプットができるようにする。

「読書」リスト

・STAGE I FIRST WORDS PACK

など

## 英語科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 長文の読解力
- 大量の英語の文章に触れ、文法、スペリング、文章構成を正しく書く力
- 正しい発音を聞き取り、正しい発音を使う力

### 具体的な取組

- たくさんの英語の文章に触れる。
- ネイティブの発音を聞き、正しい発音を聞き取る。
- 絵本を自分で選び、自分の英語のレベルの高まりを知る。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 教科書以外の本に触れ、様々な考え方やものの見方があることを知る
- 積極的に読書し、自ら知識を得ようと行動する力

### 具体的な取組

- 英語で書かれた絵本を読むことを通して、多様なものの見方に触れる。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

Date	Title	Level	Word Count	Story Evaluation	Comment
1/20	Amelia Bedelia Takes the Cake	1		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
2	Amelia Bedelia Makes a Friend	1		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
3	Amelia Bedelia By the Yard	1		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
4	Amelia Bedelia Joins the Club	1		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
5	Pete the Cat PETE'S BIG LAUGH	My First		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
6/24	Ripper's Diary	My First		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
7	Just SAVING MY MONEY BY MERCER MAYER	My First		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
8	Amelia Bedelia Hits the Trail	1		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
9/1	GOING TO THE SEA PARK BY MERCER MAYER	My First		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。

記録から生徒が読書活動を通して、英語の文章への学びが深まっていることがうかがえる。

Title	Level	Word Count	Story Evaluation	Comment
Dolphin Rescue	5		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
The Raft Race	4		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
The Red Coat	4		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
Quick! Quick!	4		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。
Search	5		1-2-3-4-5	絵本が大好きで、よく読んでいます。

### 《子どもの感想》

- ・英語の長文は苦手だったけれど、たくさんの文章を読むことで、文章量に怯むことなく読むことができるようになった。
- ・同じ単語でもちがう文章に出合うことで英単語のニュアンスの違いに気付けるようになった。
- ・最初は本を読むのが嫌だったけど、英語の本を読めるようになったのが嬉しくて、読書活動が楽しみになった。

## 取組名 色々な方法で朝の読書を楽しむ

### 《取組の流れ》

- 毎朝8:25～8:35に全校生で一斉に読書に取り組む。
- 学習文化委員が選んだ学級文庫か自分で持ってきた本を読む。
- いつもの読書に加え「放送朗読」「教員による絵本の朗読」「図書室での読書」など様々な方法で朝の読書を楽しめるよう計画を立て、実施する。
- 朗読した本や関連する本の紹介を玄関前と図書室前で行い、生徒が本を身近に感じられる機会を増やす。

### 取組のポイント

#### 毎朝決まった時間に取り組むことで習慣化する

- 読書をするのが当たり前になるように習慣付ける。

#### 様々な読書の楽しみ方を提案する

- 様々なジャンルの本を月に一度放送で朗読するなどして、生徒の読書の幅が広がるように支援する。
- 放送朗読や教職員による絵本の朗読などで、読書の苦手な生徒が読書の楽しさに気付けるように工夫する。



### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・「普段読まない絵本を久しぶりに読んでみたい」と感想に書いた生徒が多くいた。また、紹介した絵本を手にとり、読んでいる生徒の姿も見られた。

#### 課題

- ・放送朗読や絵本の朗読を通して読書が楽しいと感じた生徒は多くいたが、普段の朝の読書で読書が苦手な生徒に対して何か支援する方法を考えられたらと思う。



取組名 映像を通してストーリーを作ろう！

《取組の概要》

- TVの「めざましテレビ」のテーマである「もう少しだけ」(YOASOBI)のビデオを見る。
- 登場人物3人の行動や気持ちを考える。
- 班で話し合い、自分達のストーリーを作り、学級で発表する。
- 歌の原作である小説「めぐる」を読んで、自分たちの創作と比較する。

国語科の授業で動画を参考にして登場人物の言動を推測している生徒の様子



取組のポイント

- 「もう少しだけ」のミュージックビデオを繰り返し、視聴する。
- その際、3人の人物に、それぞれ焦点を当てて、行動や思いを読み取るようにする。

同じシーンを何度も見て、行動や心理・発言内容を推測する。

取組のポイント

- Teams にあげたワードにそれぞれが読み取った(推測した)言動を記入していく。
- 班毎に誰の記述が良いか取捨選択や加筆をしていく。

1場面につき2班が創作活動を行い、両方の班の動画を比較することで、より良いものをつくりあげていく。



単元名

お気に入りの本をしょうかいしよう

教材名：ミリーのぼうし（光村図書）

《単元の目標》

○読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。

[知識及び技能]

○文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。

[思考力、判断力、表現力等]

○進んで読書に親しみ、学習課題に沿ってお気に入りの本を紹介しようとしている。

[学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 「先生おすすめの本」の味見読書をする。
- 2 「ミリーのすてきなぼうし」の読み聞かせを聞く。  
※紹介を聞いてから読み聞かせてもらい、感想を共有する。
- 3 紹介したいと思う本を選ぶ。
- 4 紹介メモを書く。
- 5 友達と本の紹介をし合う。

味見読書（本のはじめの部分を3分間読む）を数冊行い、続きを読みたくなった本を選んでいきます。



本を紹介する手本を読み聞かせの度に教員が示し、「自分もやってみたい」という意欲を高めるようにします。

授業のポイント

本のよさに気づき、読書の幅を広げる。

- 読み聞かせの後は毎回本の感想を交流し、それぞれ違った感想や捉え方があることを知り、本のよさや物語のおもしろさに気付かせる。
- 味見読書や友達を紹介する本に興味をもち、読書の幅を広げる。普段手に取らなかった本に関心を持たせる。

「並行読書」リスト

- ・きたむらさとしさんの本（ミリーのすてきなぼうしの作者）
- ・あまがえるりょこうしゃ

など

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 場面の様子に着目し、登場人物の行動を具体的に想像する力
- 物語のあらすじや登場人物の行動を文章にまとめたり、感想を述べたりする力
- 文章を読んで感じたことや分かったことを共有し、感じ方や考え方を認め合う力

### 具体的な取組

- 場面の様子や登場人物の気持ちを交流し、読み取り方を学ぶ。
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもたせる。
- 読書記録や味見読書から自分の読書生活を見つめたり、多様な読書活動を体験したりする。

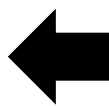
## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

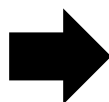
- これまでの読書の中から紹介したい本を選ぶ力
- あらすじを簡単にまとめる力
- 本を読んで感じたことや考えたことを共有する力
- 幅広く読書する力

### 具体的な取組

- 読書記録に簡単に感想を書いたりあらすじをまとめたりする。
- ブックトークで感想を共有する。
- 味見読書等を行い、読書の幅を広げる工夫をする。
- 教科書教材と同じテーマや作者の本を並行読書する。



読書活動の連動



## 子どもの変容と学びの深まり

### アンケート結果 (R4. 2月)

「読書について思うことを自由に書きましょう」

→簡潔な内容が目立った。

〈特に多かった記述〉

- ・楽しい。
- ・おもしろい。
- ・読書は好きです。
- ・おもしろい本はどこにありますか。

### アンケート結果 (R4. 11月)

「読書について思うことを自由に書きましょう」

→読書の豊かさに気付いた回答が増えた。

- ・想像すると楽しい。
- ・おもしろい本を見付けられたらうれしい。
- ・自分が本の世界に入ったかのように思える。
- ・読んだことのない本を読んでみるとおもしろかった。

### 《子どもの感想》

- ・味見読書をして、読んでみたい本が見つかりました。
- ・図書室にはまだ読んでいない本がたくさんあると分かりました。
- ・ミリーのすてきなぼうしをおうちの人に紹介したいです。
- ・友だちが紹介した本を読んでみると、本当におもしろかったです。
- ・友だちが私の本の紹介をしっかりと聞いてくれてうれしかったです。

単元名 持続可能な社会を生きる

教材名：持続可能な社会を生きる（開隆堂）

《単元の目標》

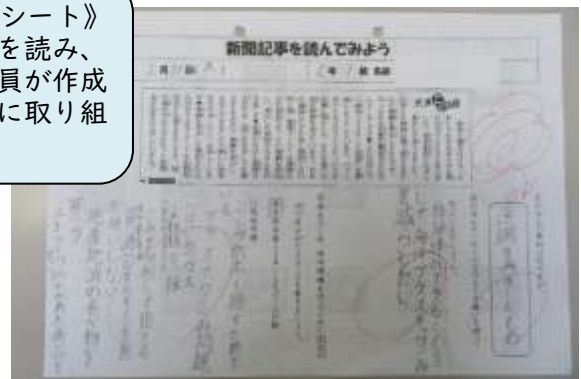
- 自分や家族等の生活と身近な環境との関わりや環境に配慮した物の使い方を理解することができる。 [知識及び技能]
- 物の使い方や環境に配慮した生活について、自分の生活の中から課題を見だし、解決に向けて実践し、振り返ることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 家族の一員として生活をよりよくしようと進んで考え、環境に配慮した生活について、課題の解決に向けて主体的に取り組み、実践しようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 教科書を読み、生活が環境に与える影響について知る。
- 2 SDGsの『海』に関する新聞記事を読み、感想や生活の中から自分たちができることについて話し合う。  
【読書活動】  
新聞記事を読み、身近に起きていることを知る。
- 3 知りたい事象を整理し、テーマを決めて調べ、発表する。  
【読書活動】  
本を読み、知識を深める。

《ワークシート》

新聞記事を読み、その後教員が作成した問題に取り組みます。



《新聞記事》

一つの記事だけでなく、関係する記事を複数紹介するようにします。

授業のポイント

効果的に新聞を活用し、学習を深めたり広げたりする。

- 導入において新聞記事から学習に入っていくと、児童の興味関心が高まり、実際に世の中で起きていることとして学習に現実味が帯びる。
- これまでに学んだことと比べながら読んだり自分の考えを深めたりするきっかけとなる。

「読書」リスト

- ・朝日小学生新聞をはじめとする新聞記事
- ・環境について書かれた本

## 家庭科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 本や資料から必要な情報を読み取る力
- 学習に関連する資料を収集し、自分の考えをまとめる力
- 学習したことを家庭生活に生かす力

### 具体的な取組

- 新聞記事を読んで分かったこと、思ったことを交流する。
- これまでに学んだことと新聞や本の内容とを照らし合わせながら学習を進め、よりよい家庭生活のための工夫を考える。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 新聞を読み、書かれてあることを大まかに理解する力
- 具体的な目的意識をもって、関連する本や資料を多読する力
- 学習に関連する資料を収集し、自分の考えを持って読む力

### 具体的な取組

- 新聞に興味を持つようワークシートなどを通して記事を読む。
- 新聞記事を複数読み、気になった記事を選ぶことができる。
- 環境問題やSDGsについて書かれた本を読む。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

### アンケート結果 (R3. 5月)

項目「新聞を読みますか」

→約9割の児童が「読まない」「ほとんど読まない」と回答。

\*新聞を購読していない家庭が多く、新聞が身近にないことが要因と考えられた。そこで新聞を導入し、触れる機会を増やした。

### アンケート結果 (R4. 11月)

項目「新聞を読みますか」

→約7割の児童が「読む」「よく読む」と回答。

(児童の感想)

- ・新聞記事は今起こっている問題や出来事を知ることができる。
- ・新聞から色々と考えさせられることが多い。

### 《子どもの感想》

- ・SDGsについて本やインターネットで調べる中で、初めて知ることばかりで、このまま何もしなければ地球がほろびてしまうと感じた。
- ・SDGsへの取組は新聞記事のように会社がするものもあれば、自分達の生活の中からできることもあることが分かった。
- ・私達の生活と地球環境は密接に関わっており、今すぐに取り組んでいかなければならないと思う。

## 取組名 夏休みの親子読書に挑戦しよう！

### 《取組の流れ》

- 1学期の終わりに、夏休み中に家で読書をする本2冊の貸出を行う。
- 夏休み用の読書記録カードを配布し、親子読書の方法等について事前指導を行う。
- 2学期に読書記録カードを回収し、保護者向けにも啓発するお便りを作成し配布する。

### 取組のポイント

#### 発達段階に応じた親子読書を行う

- 低学年は「おうちの人が子どもに読書をする」「おうちの人と子どもが交互に読む」「子どもがおうちの人に読む」という3つからそれぞれの家庭に応じて選んでもらう。高学年は「同じ空間でそれぞれ読書をする」を加えて4つとする。

#### 保護者に啓発し、読書の大切さを伝える

- 夏休みの読書記録カードには保護者にも感想を書いてもらう。
- 親子読書で読んで良かった本や感想を抜粋し、家庭での読書の定着を図る便りを作成する。

#### おうちの方の感想 一部紹介

- ・家族4人で役になりきって読んだので楽しかった。
- ・子どもが自分では選ばないような本を読ませる機会になってよかった。
- ・子どもと一緒に本を読む機会がなかったので、とてもいい時間が過ごせた。
- ・同じ空間で同時に読書をして落ち着いた素敵なひとときを過ごせた。

### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・夏休みに2冊貸出を行ったことにより、家での読書の定着が進んだ。「冬休みも2冊貸し出してほしい」と話す児童が多く、予定になかった冬休みの本の貸出を行った。冬休みは希望者だけにしたが、学校の3分の2以上の児童が借りた。またアンケートの結果、「家で読書をする」と答えた児童が7割に増えた。

#### 課題

- ・親子読書を継続して取り組んでもらえる家庭は少ない。週末の課題に出すなどして継続した取組を展開したい。

取組名 おすすめの本、紹介します ～図書委員会の取組～

《取組の概要》

- 毎年図書委員会が行っているおすすめの本の紹介を、動画やスライドで作成し、全校生に配信する。
- 教職員や図書委員会が作成したおすすめ本の紹介を校内の共有掲示板に掲載し、全校生は1人1台端末でいつでも見ることができるようにする。
- 紹介した本を図書室のコーナーに集めて、感想を書くメモを用意し、双方向でのやりとりになるようにする。

〔動画配信に向け、撮影する図書委員〕  
どのように話せば、本の魅力が伝わるか話し合いながら進めています。



取組のポイント

- 図書委員会の願い「より多くの子に紹介したい」「話の魅力を直接伝えたい」という願いを実現するために1人1台端末を利用した。

カメラをしっかりと見て、友達に話すようにしゃべろう。

取組のポイント

- 低中高に分け、それぞれスライドや動画配信など、いくつかの方法を利用して配信した。どの方法がよかったのか話し合い、次の活動に繋げようと考えた。

図書委員のお兄さんやお姉さんが紹介してくれた本を読みたいな。



どの方法がよかったのか話し合う様子

単元名

お気に入りの本をしょうかいしよう

教材名：本は友だち（光村図書）

《単元の目標》

- 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ることができる。 [知識及び技能]
- 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 進んで読書に親しみ、話す事柄を見つけてメモに書き、話す内容や話し方に気を付けて話したり、友達の紹介した本に関心を持って発表を聞いたりしようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 本の紹介の仕方を確認する。
- 2 お気に入りの本の登場人物や出来事を整理する。「おすすめポイント」を見付ける。
- 3 ペアで本の紹介の練習をし、アドバイスや感想を出し合う。
- 4 全体へ本の紹介をする。
- 5 学習をふり返る。

虎がみんなのために橋になってがんばります。蛇に巻き付かれたり、鳥につつかれたりしても怒りません。

すごいね。虎の気持ちを紹介してもいいね。

ゆうくんの体が毎日成長し新しくなるお話です。いろんな骨がでてきて面白いです。このページには骸骨も出てきます。髪の毛や爪も伸びてきます。ぜひ読んでみてください。

授業のポイント

観点を明確にして、本の良さを捉えさせる。

- 本の紹介の中に、「おすすめポイント」を取り入れた。「おすすめポイント」を見付けさせる際に、絵に関すること、会話文に関すること、物語の内容に関することの3つの視点を示すことで、絵本の特徴や良さを捉えやすくした。

「紹介した書籍」リスト

- ・教室はまちがうところだ
- ・まいにちからだはあたらしい

など



## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 伝えたい情報を選び、相手に伝えるように表現する力
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を整理する力
- 物語を読んで、自分の体験と結び付けて感想を持ち、感じたことや分かったことを共有する力

### 具体的な取組

- 本の紹介の仕方を知る。
- 挿絵や会話文や内容から本の特徴や良さを捉え、「おすすめポイント」として整理する。
- 本を紹介し合い、意見交流をする。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 読書を通して、いろいろな本があることを知る力
- 進んで読書をしようとする力
- 本の挿絵、表現の工夫、内容などから、本の特徴や良さを捉える力

### 具体的な取組

- 友達から紹介された本を読む。
- 読んだ本の良さを読書記録や紹介カードに書く。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり



### 《子どもの姿》

絵や内容から本の面白さを感じたり、会話文から登場人物の心情を想像したりして、おすすめポイントをまとめることができた。ペアでの本の紹介の練習の際、「ここおもしろいね。」などと思いを共感したり、「この部分も紹介したらいいね。」とアドバイスを出し合ったりした。ペアでの活動を通して、新しくおすすめポイントを見つけることができた。全体へ紹介した後は、「続きが気になる。」「あの本を読んでみたい。」などと意見が出て、読書への意欲が高まった。

音楽科

単元名 絵本に音楽をつけよう

教材名：いろいろながっきの音をさがそう（教育芸術社）

《単元の目標》

- 音色やリズムなどと曲想との関わりに気づき、音楽の音色に気を付けて演奏したり、呼びかけとこたえを用いてリズムをつくったりする技能を身に付けることができる。 [知識及び技能]
- 楽器の音色やリズムの違いが生み出すよさや面白さを見いだして聴いたり、楽器やリズムの組み合わせ方について思いをもったりする。 [思考力、判断力、表現力等]
- 音色とその組み合わせのよさや面白さを見いだして聴いたり、それらの特徴を生かして協働で表現したりする学習を楽しみ、楽器の音色への興味・関心を広げようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 お気に入りの絵本を読む。  
【読書活動】
- 2 絵本の好きな場面を選び、聞こえてきそうな音色やリズムを考えて、グループで音楽を作る。
- 3 絵本と場面の説明をして、作った音楽を演奏する。
- 4 発表を聞いて、感想を出し合う。

もっと早いリズムで音を鳴らした方が楽しそうな様子が伝わるかもしれない。音も大きくしてみようか。



スイミーです。作者はレオ・レオニです。小さな魚の群れにマグロが突っ込んでくる場面です。大太鼓をつかって、強さを表します。

授業のポイント

音楽づくりと絵本の相互作用

- 絵本の場面に音色やリズムをつけることを通して、登場人物の行動を具体的に想像させたり、情景をより深く感じ取らせたりし、絵本をより楽しませる。
- 絵本による場面設定をすることで、より具体的な曲想を持たせ、音色やリズムを作りやすくさせる。

「読書」リスト

- ・スイミー
- ・おれはティラノサウルスだ
- ・きたかぜとたいよう
- ・ぎょうれつのパンやさん など

## 音楽科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する力
- 曲想と音楽の構造との関わりについて気付く力



### 具体的な取組

- 絵本を読んで、場面に合う音色やリズムを想像して、打楽器等の演奏をする。
- 絵本の場面と照らし合わせて、友達の演奏を聞いて意見を持つ。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 物語の登場人物の行動を具体的に想像したり、情景を感じ取ったりする力
- 進んでいろいろな本に出会おうとする力

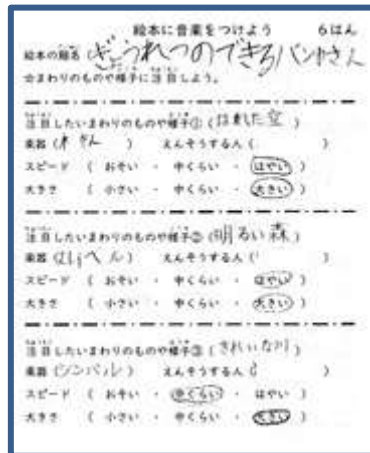


### 具体的な取組

- 会話文や挿絵に着目したり、挿絵で表現されていない情景を想像したりしながら読む。
- 友達と意見交流を通して、本への興味を広げる。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり



### 《子どもの感想》

- ・「おれはティラノサウルスだ」でプテラノドンの逃げたい、力いっぱい飛ぶぞという気持ちが頭の中に広がりました。だから、コンガをゆっくり力強くたたきました。夜空の星がきらきらしている様子を想像して、小太鼓を小さくたたいてみましたが、難しかったです。
- ・本をただ読んでいるだけでは、想像があまり広がりませんでした。音をつけたら、想像がいっぱい広がりました。音をつけたら楽しくなることを知りました。他の本でもやってみみたいです。

## 取組名 越部っ子 移動図書室

### 《取組の流れ》

- 図書委員会で、図書室の本の中から学年ごとにおすすめの本を選ぶ。
- 朝の読書の時間に図書委員が、おすすめの本を教室まで運び、一人一冊貸し出しを行う。

### 取組のポイント

#### 本の厳選

- これまでの貸し出しデータや本の内容、ページ数などから各学年に合ったおすすめの本を選ぶ。
- いろいろな種類の本を選び、本への興味の幅を広げる。



#### 一人一冊

- 朝の読書の時間に、図書委員が教室まで出向き、一人一冊貸し出しを行うことで、普段、図書室に行くことが少ない児童にも、読書の良さを感じさせたり、本への興味を高めたりする。

### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・これまで、なかなか図書室を利用することのなかった児童が本を借りることができ、読書の楽しさに改めて気付くきっかけとなった。また、これまで読んでことのない種類の本を借りることで、読書への興味の幅を広げることができた。

#### 課題

- ・選んだ本の冊数が児童数+数冊であったため、希望通りの本が借りられない児童がいた。自分の好みと違う本に出会い、興味の幅を広げるきっかけと捉えることはできるが、あまりにも好みとかけ離れている場合は、本への苦手意識が増大することも考えられる。選ぶ本の冊数を増やすなど対策が必要である。

## 取組名 読み聞かせ動画の配信

### 《取組の概要》

- 揖龍地区小学校図書館教育部会が選定したリストから絵本を選び、教員や図書委員会が読み聞かせ動画を作成する。
- 作成した動画を、低学年の共有掲示板に定期的に掲載し、1人1台端末を活用していつでも見ることができるようにする。

読み聞かせ動画を視聴している児童の様子



### 取組のポイント

- 読み聞かせ動画の配信により、すらすらと字を読むことが苦手な児童にも絵本を楽しめるようにする。動画を手本として、自分ですらすらと絵本を読めるようにする。

この絵本、おもしろいね。もう一回読んでもらいたいし、自分でも読んでみたいな。

### 取組のポイント

- 図書委員会で朗読の際に工夫したいことを考えさせることで、絵本の特徴を捉えさせたり、抑揚や声量などの音読の技術を高めたりする。

この場面では、主人公が慎重に行動しているよ。だから、小さな声でゆっくり読んでみたらいいね。

朗読動画を作る図書委員会の子ども様子



単元名

短歌（百人一首）に親しむ

教材名：短歌に親しむ・短歌を味わう（光村図書）

《単元の目標》

- 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにできる。 [知識及び技能]
- 観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考え、短歌の多様な魅力を感じ取ることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 言葉がもつ価値に気付くとともに、読書を生活に役立て、言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 教科書「短歌に親しむ」「短歌を味わう」を読み、短歌の表現技法を知り、内容を読み取る。
- 2 短歌の学習を生かし、短歌を創作したり、短歌の鑑賞文を書いたりする。
- 3 日本の古典文学であり、自分たちに身近な「百人一首」から、自分の好きな一首を選ぶ。
- 4 選んだ百人一首について書かれている本を、図書室の本の中から2冊以上選んだり、タブレットで調べたりして、内容理解を深める。

複数の本を読み比べてみよう

図書室使用文献

- ・「ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首(全)」谷知子 編 (角川ソフィア文庫)
- ・「口訳万葉集 百人一首 新々百人一首 日本文学全集02」 (河出書房新社)  
折口信夫 小池昌代 訳：丸谷一
- ・「学研まんが事典シリーズまんが百人一首事典」 (学研)  
山田繁雄 監修 竹本みつる 漫画
- ・「みんなで遊ぼう！！ 百人一首 大図鑑」 (国土社)  
吉海直人 監修
- ・「小倉百人一首 現代語訳 日本の古典」 (学研) 宮柊二

授業のポイント

- 同じ短歌について書かれている複数の本を読み、それを比較することで、内容理解を深められる。図書室にも古典コーナーを作り、本を探しやすくしたり、他の古典の本を並べたりし、古典に興味をもたせる。
- 自分の好きな「百人一首」を選ぶ過程で、いろいろな短歌に触れる機会が生まれる。



## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 表現に注意して読み、作品に表れている作者のものの見方や感性を捉える力
- 本やタブレットなどから目的に応じて必要な情報を読み取る力
- 本を読んで得た知識やそれに対する自分の考えを表現する力



### 具体的な取組

- 短歌の表現や作者のものの見方を読み取る力をつける。
- 自分の選んだ資料から、必要な情報を取捨選択し、整理する。
- 短歌の解説本を複数読んで自分の考えを深め、自分の考えを表現する力を伸ばす。

## 日々の読書活動

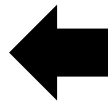
### 身に付けさせたい力

- 本の内容を読み取る力
- いろいろな資料の中から、自分の調べたいことが書かれた図書を見つけられる力
- 複数の本を読むことで得た情報の中で必要なものを選び、整理する力

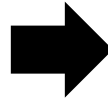


### 具体的な取組

- 短歌（百人一首）について書かれた本を図書室やタブレットなどで調べる。
- 複数の本を選び、必要に応じて情報を取捨選択する。
- 得た情報に基づき、自分の考えをまとめて書く。



読書活動の連動



## 子どもの変容と学びの深まり

（子どもの変容）

（読み比べる前の予想）

- 何冊読んでも、同じ短歌なのだから、同じ解釈になるはずだ。
- 長い文章や翻訳された話なら、調べる本によって違いが出そうだが、短歌はそんなに違いはないだろう。



（読み比べた後の感想）

- 同じ短歌でも解釈が詳しく書かれていたり、作者の人生にスポットを当てていたり、見る角度によって短歌の内容の伝わり方が違う。
- 複数の本を読んだので、より詳しく情景が連想でき、面白かった。

（学びの深まり）

- 本によってどこに焦点を当てているかに気付かせ、本の多様性を感じさせたり、短歌の奥深さを味わわせたりできた。
- 自分の好きな短歌を探したり、短歌について書かれている本を複数読んだりすることで、さらに他の短歌についても詳しく読み深めていこうとする意欲が高まった。

総合的な学習の時間

単元名 読み聞かせてつながろう

《単元の目標》

- 幼児の発達段階にあっていて絵本を選ぶことができる。 [知識及び技能]
- 声の大きさや読む速度などに気を付けて、幼児に内容がよく分かるように読み聞かせができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 興味をもつように工夫をした読み聞かせの仕方を考えるなど、相手のことを考えて読み聞かせをしようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 グループごとに、幼児の発達段階にあった絵本を選ぶ。図書室の絵本コーナーの作品を中心に選ぶ。
- 2 絵本の読み聞かせの基本を学ぶ。本の開き方やスピードなどを話し合ったり、タブレットで調べたりして考える。
- 3 グループごとに読み聞かせの練習をする。
- 4 読み聞かせを披露する。よく工夫できているグループの読み聞かせを、学年に配信し各学級で視聴する。

絵本を手にもって行うのではなく、紙芝居のように台に立てて、読み聞かせをしています。



読み聞かせが上手なグループの朗読を、学年に配信しました。各教室で聞きました。手前にあるのが配信用のパソコンです。

授業のポイント

- 絵本を選ぶ中で幼児の発達段階によって感じ方や捉え方が違うことに気付き、本の魅力を改めて感じるとともに、読書への意欲を高めることができる。
- 相手に伝わるように読み方を工夫する中で、読み聞かせの楽しさや他の人の朗読を聞く楽しさを味わうことができる。

「人気の絵本」

- ・ ぐりとぐら
  - ・ はらぺこあおむし
  - ・ おおきなかぶ
  - ・ おつきみおばけ
- ※自分が幼いころ読んだ絵本が多い。



## 総合的な学習の時間の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 幼児の発達段階を考えて、本を選ぶ力
- 幼児が聞きたくるように、読み方を工夫し、絵本の魅力に触れる中で自分も読書を楽しむ力

### 具体的な取組

- 幼児の発達段階について調べたり、興味をもちそうな内容を調べたりして、読み聞かせに合った本を選ぶ。
- 他の人と相談しつつ、読み聞かせの仕方をタブレットで調べる。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- たくさんの図書の中から、自分が選びたい本を見つける力
- 朗読の仕方を工夫する中で、その本の魅力を見つけ楽しむ力

### 具体的な取組

- 図書室の本や自分が今まで読んだ本などの中から、グループごとに話し合って本を選ぶ。
- 声色や声のトーンを変えたり、読むスピードを考えたりし、幼児にわかりやすいように読む。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

読み聞かせ後、絵本を借りたり、読みに来たりする生徒が増えたので、さらに関心を高めるために、絵本の特集コーナーを設置することにした。



鳥や虫の絵本コーナー

### 《子どもの感想》

- ・ 声色を変えたり、はっきりと話すことを意識したりして、相手が聞きたくないように工夫して読むことができた。あまり朗読をする機会がないので楽しかった。また、絵本は、中学生の私が読んでも面白いものがあると思った。
- ・ 他の人の読み聞かせ動画を、学年配信で見ることができて面白かった。選ばれた人たちの読み聞かせは、さすがに上手だと思った。

## 取組名 本を読みに来たくなる魅力ある図書室に！

### 《取組の流れ》

- 図書室の本の中から1冊おすすめの本を選び、図書委員がポップを作る。
- 給食の時間に、全校放送で読み聞かせをする。
- 学校司書（週2回午後勤務）と図書館ボランティアと図書委員会とで相談して、図書室の配架・図書紹介・掲示を工夫する。

### 取組のポイント

#### 図書室の本を紹介する

- 「古典」「自然環境」「歴史」など学習内容に関連のある本のコーナーを作り、授業で知らせる。
- 太子町立図書館の「中学生に読んでほしい本」や地区の中学校図書館教育担当者による「推薦図書」を掲示し、それらの本を手に取りやすいように並べる。

#### 本への興味・関心を高める

- 図書委員や図書ボランティアが、給食の時間に全校放送で、図書室の本の読み聞かせを行う。
- 図書室以外の場所（廊下や下足場）にも、詩や文章の一節を掲示したり、季節に合った本を並べたりする。



各学年の図書委員が、書いたポップ



コーナーを作ったり、本棚に内容紹介文を貼ったりした。

### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・授業でコーナーを紹介したり、全校放送による読み聞かせをしたりした後は、普段あまり図書室を利用しない生徒が多く来室した。
- ・コーナーがあると、そのコーナーに興味がある生徒はもちろん、普段あまり手に取らないジャンルの本にもかかわらず興味を示した生徒がいた。

#### 課題

- ・全校放送やポップで図書室の本を紹介した後は、一時的に図書室利用者が増えるが、継続的な来室や貸し出し増加にはつながっていない。そこで、自ら進んで読書をしようという意欲を高めたり、読書活動の啓発を図ったりする必要がある。今後、学校司書や公立図書館とも連携して、取り組んでいきたい。

取組名 タブレットを使って文章を書こう

《取組の概要》

- 登場人物の視点を変えて文章を書くことで内容理解を深めるとともに、自分で心情を想像して読書をする楽しさを味わう。
- 自分の印象に残った場面を、タブレットを使ってリライトし、読みを深める。

タブレットを使って文章を書いている生徒



取組のポイント

- 授業で学習した「盆土産（光村図書）」のリライトに挑戦。自分の好きな場面を、方言を生かしながら、別の人物の視点で書く。
- 書いている途中で、何人かの作品を黒板のスクリーンに映し出し、紹介する。自分と違う視点や表現の仕方を知ることによって、自分の作品を振り返りつつ創作できる。

作家って大変だなあ。でも、自分で想像して文章を書くのって、意外と楽しい。

取組のポイント

- タブレットを使うことで、漢字や文章を書くことが苦手な生徒の負担を少しでも軽減できる。
- 言葉や方言を調べる際に、タブレットを使える。また、図書室の国語辞典も用意し、辞典の便利さも伝える。

タブレットでのリライトは、漢字が苦手な生徒でも取り組みやすく、概ね好評であった。しかし、タブレットは苦手で、自分の手で書くほうが良いという生徒もいた。自分の手で字を書くことも大切であるので、バランスを考える必要がある。

生徒の感想

- ・文章を書くのは苦手だけれど、夢中になって書けました。意外と長い文章が書けました。
- ・タブレットで書くほうが楽でした。
- ・自分で考えて文章を書くのは、難しいけれど面白い。
- ・視点を変えて書くことで、授業で学習したときと、違うものが見えてきた。
- ・他の人の作品を読むと、人それぞれの表現の仕方があることを実感した。これから自分の感性を、磨きたい。
- ・楽しいと思ったし、もう一度やってみたいと思った。



## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 本や文章などから目的に応じて必要な情報を読み取る力
- 文章を読んで理解したに基づいて自分の考えや感想を表現する力
- 発表者が伝えたいことや自分が聞きたいことを考え、話し合う力

### 具体的な取組

- 情報を得るための本の読み方（目次・索引等で調べる方法）を学ぶ。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を整理する。
- 自分の体験や既習の内容と結び付けて自分の考えをまとめる。
- 本を読んで感じたことや考えたことをグループで交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 自分の目的に合った本や自分が紹介したい本を選ぶ力
- 話の大まかな内容を捉える力
- 多様な本に触れ、自分の読書の幅を広げていく力

### 具体的な取組

- 教科書教材と同じテーマや、同じ作者の本を並行読書する。
- 読書記録をつけ、振り返りをし、これまで読んでいなかったジャンルの本を読む。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり



〈初めて知ることを探す様子(3/5時)〉



〈友だちと互いに本を紹介する様子(5/5時)〉

### 《子どもの感想》

- ・本で調べて初めて知ったことがたくさんありました。物語をいっぱい読んだことはあったけれど、図鑑をあまり読んだことがなかったので、いっぱい本を探せてよかったです。
- ・色々な本と触れ合えたり、色々なことを知ることができてよかったです。少し図鑑にも興味を持ちました。
- ・知らないことがたくさん知ることができてよかったです。恐竜の本はめったに読まなかったけれど、読む機会ができてよかったです。

総合的な学習の時間

単元名 平和について考える -戦争とこれからの私-

《単元の目標》

- 戦争や原爆のことについて調べ、戦時中の人々の生活や被害の様子や知り、戦後から現在に至る人々のさまざまな努力や願いについて考えをもつことができる。[知識及び技能]
- 戦争や原爆に関わる事象等を調べたことや、平和学習を通して学習したことを基に、平和について考えたことを表現することができる。[思考力、判断力、表現力等]
- 戦争や原爆に関わる事象について、意欲的に学習に取り組むとともに、身近な平和のために自分にできることを考えようとしている。[学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 平和学習について興味関心を高めるために絵本を読み、意見を交流する。
- 2 日本の戦争の歴史について調べ、原子爆弾が落とされた理由について知る。
- 3 佐々木貞子さんを中心にして、広島と原子爆弾について学習する。
- 4 平和記念公園について調べ、パンフレット作りをする。
- 5 修学旅行で、実際に平和記念公園や原爆資料館を見学する。
- 6 修学旅行報告会に向けて学びをまとめる。



平和学習の初めとして、「まっ黒なおべんとう」という本を読んでもらいました。この話は、本当のことをもとにして作られているようですが、子どもの姿は分からなくても、弁当で自分の子どもだと分かるなんて、本当なんだろうかと思いました。

授業のポイント

1人1台端末を活用し、感想を積極的に交流させる。

- 絵本「まっ黒なおべんとう」の読み聞かせを聞いた後、googleドキュメントを使用してそれぞれの感想を共有閲覧できるようにし、それぞれの感想を積極的に交流させる。

「並行読書」図書リスト

- ・「ヒロシマの子守歌」
- ・「おとなになれなかった弟たちに…」
- ・「ぼくの見た戦争」等

## 総合的な学習の時間の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 平和学習に関心を持ち、進んで調べようとする力
- 平和学習を通して学んだことを自分達の生活に生かす力
- 平和学習に関連する資料を収集し、自分の考えをまとめる力



### 具体的な取組

- 絵本や資料を読んで感じたことを交流する。
- 収集した資料から読み取った内容や感想を交流する等、報告会に向けて自分の考えを整理する。

## 日々の読書活動等の取組

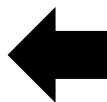
### 身に付けさせたい力

- 目的意識をもって関連する本を読み広げる力
- ニュースや新聞に興味を持ち、自分の意見をもって読む力
- 本を読んで考えたことを進んで交流しようとする力

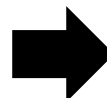


### 具体的な取組

- 平和学習に関連する本を教室の本棚に配架する等、児童が本を気軽に手に取りやすい環境づくりに取り組む。
- 新聞の関連記事を児童に提示し、意見交流の機会を作る。



取組の連動



## 子どもの変容と学びの深まり

### 《子どもの感想》

- ・修学旅行で学んだことを全校生に修学報告会で伝えることができました。全校生のみんながとても静かに集中して聞いてくれました。これからも原爆や戦争について学び続け、その恐ろしさを伝えていきたいです。
- ・修学旅行報告会がありました。修学旅行に行ったり平和学習を積み重ねてきたりした成果を発揮することができました。私たちにできることは、見たり学習したりしたことを広めることです。平和な今を大切に、これからも友だちに優しい心で接していきたいです。



修学旅行報告会の様子

## 取組名 「読書の木」に花を咲かせよう

### 《取組の流れ》

- 読んだ本を「読書記録カード」に記録し、20冊達成ごとにカードに「がんばりシール」を貼る。
- 一人一人の年間読書目標を50冊に設定し、50冊達成ごとに「読書の木」に自分の名前の花を貼っていく。
- 「読書の木」は、児童の目に留まる図書室入口に掲示する。

### 取組のポイント

#### 朝読書の時間に読書の記録をする

- 毎週月曜日・金曜日の朝読書では、一人一人に読む本と記録カードを準備させ、学級全体で読んだ本を記録する習慣を付けさせる。

#### 50冊達成ごとに花が咲く

- 年間目標の50冊達成ごとに、「読書の木」に児童の名前が書かれた花が咲き、読書への動機付けを行う。
- 学年ごと、達成冊数ごとの花の色を変えて、児童の意欲を高める。



### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・「読書の木」に友だちの花が増えていることに気づき、「(自分も花を咲かせるに)次は100冊。がんばろう。」と、目標を持ち、意欲を高める姿が見られた。

#### 課題

- ・読書記録や「読書の木」への関心が徐々に薄れるため、「読書の木」について各学級で紹介したり、委員会企画のイベントと連動させたりする必要があった。
- ・低学年は読書記録や読書の木に意欲的に取り組むことができた。一方で高学年の児童は、低学年と比べて一冊の分量が多いため、達成感が得られない様子があった。目標を冊数ではなくページ数で設定すると、どの学年の児童も達成感を得られたのではないだろうか。



## 取組名 読み聞かせ動画の作成・視聴

### 《取組の概要》

- 図書委員会の活動で、読み聞かせ動画の作成を行う。
- 読み聞かせの本選びは、季節に合わせて委員会の児童が決める。
- 作成した読み聞かせ動画を各学級で視聴する。(低学年を中心に)
- 動画を視聴した低学年の児童が、委員会の人へお礼のメッセージを書く。
- 読み聞かせ動画を分析しながら読み聞かせの動画を撮影する。

12月に動画を観てもらうため、クリスマスに関する本を選び、読み聞かせの練習をしている様子



### 取組のポイント

- 季節の行事や食べ物について話し合い、それらをもとに読み聞かせする本を選ぶ。まだ一人で読むことが難しい低学年が物語の世界に入ることができるよう、読み聞かせ動画の作成に取り組む。

少し長い絵本だから、読み聞かせは途中までにしよう！教室に置いておいたら、続きは自分で読んでもらえるかな。

### 取組のポイント

- 撮影した読み聞かせ動画を観て、読む速さや声の大きさ、間の取り方について、自分で分析したり他の友達にアドバイスをもらったりする。撮影と分析を繰り返しながら、よりよい読み聞かせ動画を作成できるようにする。

最初は緊張して少し早口になってしまったけれど、だんだん読む速さに気を付けて読めるようになってきた。

図書委員会の児童が撮影した読み聞かせ動画を観て、自分自身で分析する様子



単元名 **ポスターセッションで読書の幅を広げよう**

《単元の目標》

- 紹介する本について、必要な情報を読み取ったりキャッチコピーを作ったりすることができる。 [知識及び技能]
- 本の魅力を伝えるポスターを作成することができる。
- 本の魅力を自分の言葉で伝えたり、友達に質問したりできる。 [思考力、判断力、表現力等]
- ポスターセッションを通して、読書の幅を広げようとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 本時のめあてを確認する。  
※ポスターセッションで読書の幅を広げることを確認する。
- 2 第一セッション～第四セッション  
・PRタイム  
(発表内容をPR)  
・移動タイム  
(聞きたいグループの席へ移動)  
・発表タイム  
・交流タイム  
(発表に対する質疑応答)
- 3 本時のまとめ

「僕がおすす  
めする本  
は・・・」  
ポスターを  
指してみん  
なに本の内  
容を紹介し  
ています。



本のテーマ  
ごとにグル  
ープを作っ  
て、ポスタ  
ーを完成さ  
せました。

授業のポイント

ポスターセッションを通して読書の幅を広げる。

- 1年生で学習した本のポップづくりを生かして、おススメの本のポスターを個人で作成した。その後、同じようなテーマを選んだ生徒でグループを作り、ポスターセッションを行った。
- 本の紹介をしたり、質問したりするやりとりを通して普段自分が読まない本にも興味をもつよう工夫した。

ポスターセッションの  
テーマ例

- ・スクールライフ
- ・日本文学
- ・怖い本
- ・青春
- ・恋愛

など

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 本や文章などから目的に応じて必要な情報を読み取る力
- 本の魅力を伝えるためにどのような情報が必要かを考える力
- 伝えたい情報を選び、相手に伝えるように表現する力

### 具体的な取組

- 自分が読んだ本の中から紹介したい本を選ぶ。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を選ぶ。
- 本の魅力を伝えるためにキャッチコピーを工夫したり、簡潔に内容をまとめたりする。
- ポスターセッションを通して交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 一冊の本を読みきる力
- 自分がおすすめしたい本を選ぶことができる力
- 本の魅力を伝える力
- 色々なジャンルの本を読む力

### 具体的な取組

- 学校図書館の配架を工夫し、生徒が本を手にとりやすい環境を整える。
- 朝読書を通して1冊の本を読みきる。
- 教職員や友達の本の紹介を聞いてこれまで読んでいなかったジャンルの本を読む。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

アンケート結果 (R3. 11月)

○あなたは1か月に何冊本を読みましたか。

- ・ 1冊以上読む . . . 75%
- ・ 読んでいない . . . . . 25%

アンケート結果 (R4. 11月)

○あなたは1か月に何冊本を読みましたか。

- ・ 1冊以上読む . . . 94%
- ・ 読んでいない . . . . . 6%

### 《子どもの感想》

- ・ポスターセッションをして、こんな本が学校にあったんだと思いました。読んでみたい本が見つかったので、また借りに行きたいです。
- ・ポスターセッションで普段自分が読まない本を紹介しているグループのところに行ったので、新しい本に出会うことができ良かったです。
- ・私は読書が好きで本をよく読んでいますが、最近は同じジャンルの本を読むことが多かったのですが、今回の学習を通していつもは読まない本を知ることができて良かったです。気になる本が3冊あったので図書室で探してみようと思います。

単元名 戦時下の国民生活

教材名：第二次世界大戦と日本（日本文教出版）

《単元の目標》

- 戦時下の国民生活について諸資料を通して多面的・多角的に捉えることができる。  
[知識及び技能]
- 戦時下の人々の生活に関する実際の資料や写真を見ることを通して、戦争の悲惨さを痛感し、戦争のない社会の実現に向けた自分の考えを表すことができる。  
[思考力、判断力、表現力等]
- 戦時下の国民の生活について、そこで見られる課題を、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。  
[学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 学習のめあてを提示する。  
「戦時下の国民生活の様子を多面的に知ろう」
- 2 太平洋戦争中の日本国民の生活の様子について資料を用いて調べる。
  - 個人で本を選び、自分で調べたことをまとめる。
  - 班で調べたことを共有し、まとめる。
  - タブレットを活用し、実際の映像資料を視聴する。
- 3 第二次世界大戦の様子、国民生活を振り返って、学んだことをまとめる。



授業のポイント

写真や図説などの本を効果的に活用し、戦争の悲惨さを多面的・多角的に捉え考察する。

- 教科書には掲載されていない資料やさらに具体的な説明、図説などから得た新たな知識を習得することで、生徒の学習意欲を高める。
- 生徒が教科書以外の図書や写真集で見つけた資料を通して、物事を異なる面から捉えることで、より深く、多面的な考察を行うことができる。

「読書」リスト

- 「写真・絵画集成  
日本の子どもたち  
—近現代を生きる—  
(日本図書センター)

## 社会科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 資料から必要な情報を探し、読み取る力
- 得た複数の情報を照合し、多面的・多角的に考察する力
- 収集した資料から、自分の考えを深め、まとめる力

### 具体的な取組

- グループ内でテーマを分け、ジグソー学習形式で調べる。
- 収集した情報を班で共有させ、多面的な知識を獲得する。
- 映像資料を視聴し、得た知識と実際の映像を組み合わせ、戦争の悲惨さや当時の生活の過酷さについて深く読み取る。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 学習に必要な資料を収集し、自分の考えを持って吟味する力
- 具体的な目的意識をもって、関連する本を多読する力

### 具体的な取組

- 戦争に関する複数の資料等を読む。
- 自分が調べたい資料を図書室の中から見つける。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

### 《子どもの感想》

- 日本の国民の生活をきいて、すごく貧しかったのだと思いました。今、食事を三食ちゃんと食べられることに感謝しないといけないと思いました。いつ爆弾が落ちてくるかわからなくて、毎日恐怖で仕方なかったと思います。戦争の影響で今も苦しんでいる人がいるということを知って、今後絶対にそんなことがあってはいけないなと思いました。
- 僕が思っていた以上に苦しい生活をしていることがよくわかった。ユダヤ人の資料を見て、今まで見たこともないような体で言葉にできないなと思いました。シャワー室で毒ガスをまいて苦しみながら亡くなったと聞いて、本当にそんなことをやって心が痛くならないのか、疑問に思いました。
- 沖縄では、沖縄戦で多くの県民などの関係ない人々が亡くなったと知りました。戦争をすると決めた人や軍人たちだけでなく、多くの人が巻き込まれてしまうのは恐ろしいことです。「軍官民共生共死」は、この言葉を聞いただけでも想像できたけど、恐ろしいなと思いました。
- ナチ党によるユダヤ人の迫害は授業中の映像を見たり、資料で調べたりすると衝撃的で、アウシュビッツ収容所はいつかこの目で見てみないといけないなと思った。

取組名 「この本 読もう」 学校図書館ボランティアとの連携

《取組の流れ》

- ボランティア、地域図書館司書と連携し、定期的な読み聞かせ、ブックトーク、図書室整備等を通して読書意欲の向上を目指す。
- ボランティア、学校職員の「おすすめの本」の紹介カードと本を図書室前に掲示し、さまざまな分野の本について関心を高めさせる。
- 全校生徒、ボランティアに呼びかけ、ポップカードを作成し、「一中ブックリスト」として廊下に掲示したり、学校HPに掲載したりする。

取組のポイント

読み聞かせ・ブックトーク・図書室整備

- さまざまな分野の本のよさを知り、読書の楽しさを感じられるように支援する。
- 掲示物作成、消毒等の作業を通して図書室を楽しく、安心して利用できるように環境整備をする。

「一中ブックリスト」の作成

- 友だちやボランティア、先生方が紹介した本に関心を持たせ、読書の幅が広がるようにする。
- 本の内容や感想等を伝え合うことの楽しさに気付かせる。



子どもの変容と課題

子どもの変容

- ・「ブックトークや読み聞かせ、ブックリストで紹介された本を読みたい」と紹介された本を借りに来る生徒や、友だち同士で本について話す生徒が増えた。

課題

- ・ブックトーク、ブックリスト等の取組も時間が経過すると関心が薄れるので、常に新しい情報を提示し、活動の活性化を図る必要があった。

取組名 香住一中ブックリスト

《取組の概要》

- 1、2年生が夏休みに作成した本のポップを校内の共有掲示板に掲示した。その後、活動の周知を図るため学校HPに「香住一中ブックリスト」として掲載し、広く閲覧可能にした。
- 「香住一中ブックリスト」をひとつの参考にして朝の読書の本を選んだ。

朝読書の時間に友達が作成した本のポップを参考に、本を探している生徒



取組のポイント

- 自分の読んだ本の中から、友達に紹介したい本のポップを作成し、ジャンルごとにまとめてHPに掲載し、1人1台端末で閲覧できるようにした。

朝読書におすすめの本がないか探してみよう。

取組のポイント

- みんなが通る玄関（昇降口）横の校内掲示板を活用し、一覧できるようにした。その後、1人1台端末でじっくりと見られるようにした。

まずは掲示板で確認。その後、ゆっくり1人1台端末で見て参考にしてみよう。

「香住一中ブックリスト」として校内の掲示板に掲示した。その後、1人1台端末で見られるようにした。



単元名

人間と自然との関わり方について考え、自分の意見を持つ

教材名：絶滅の意味（東京書籍）

《単元の目標》

- 段落が果たす役割を理解するとともに、論の進め方や説明の仕方について考え、筆者の主張を読み取ることができる。 [知識及び技能]
- 「絶滅の意味」を読み、生物の絶滅がどのように人間に影響するかを考え、自分の考えを持ち、伝えることができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 人間と自然との関わり方について考え、自ら地球環境について調べ、自分の意見を持ち、伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 「絶滅の意味」を読む。  
本文を読み、論の進め方に注目し、筆者の主張を読み取る。
- 2 地球環境について調べる。  
人間が引き起こしている地球環境についてタブレットを使って調べる。
- 3 自分の意見を書く。  
調べた内容をまとめ、自分の考えを書く。
- 4 意見を交流し合う。

人間が引き起こしている環境問題ってこんなにあるんだな。



環境問題の解決に向けて、自分から些細なことでも取り組んでいきたいです。

授業のポイント

調べ学習から様々な視点で考えることができる。

- 環境問題について調べると、様々な情報があるが、その情報を吟味し自分の意見につなげる工夫が必要であることに気付かせる。
- 様々な環境問題について意見交流し、自分ない意見を知ることで物事を多角的に考えることにつながる。少しでも地球環境に目を向けられるよう、関連の本を紹介し、自分の考えを持つよう声かけをする。



## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 筆者の主張を読み取り、文章に表れているものの見方や考え方を捉える力
- 本や文章などから目的に応じて必要な情報を読み取る力
- 自分の意見と必要な情報をまとめ、文章化する力

### 具体的な取組

- 作品のテーマや作者が伝えたいことの読み取り方を学ぶ。
- 伝えたい内容に合わせて必要な情報を整理する。
- 環境問題について伝えるための表現を工夫し、交流する。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 調べたものから必要な情報を読み取る力
- 自分の意見を書くためにどのような情報が必要かを考える力
- 伝えたい情報を選び、相手に伝わるように表現する力

### 具体的な取組

- インターネットの情報を鵜呑みにすることなく、多角的に読み取る。
- 読書記録を振り返り、これまで読んだことがないジャンルの本を読み、見聞を広める。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

アンケート結果 (R3.6月)



アンケート結果 (R4.7月)



### 《子どもの感想》

- ・私は地球温暖化について調べました。地球温暖化で世界的に二酸化炭素濃度が増加し、気温の上昇や異常気象が引き起こされています。その他にも、疫病の増加や食料の不足なども引き起こされる可能性もあります。それらの原因はこの「絶滅の意味」の主張と同じく人間です。私たちは火力発電を減らしたり、ごみを減らしたりするべきです。それによって、二酸化炭素が削減できるからです。その他にも、日頃から節電したり、電気自動車を利用するようしたりすることが普段からできる地球温暖化対策だと考えます。後世も快適に生活できるように日頃から意識すべきなのではないかと思っています。

家庭科

単元名 幼児とのかかわり

教材名：ドキドキわくわくふれあい体験（開隆堂）

《単元の目標》

- 幼児の発達や生活の特徴に応じたかかわり方について理解することができる。  
[知識及び技能]
- 幼児とのよりよいかかわり方について考え、工夫できる。  
[思考力、判断力、表現力等]
- 幼児とのかかわり方について問題を見だし、課題を設定しようとしている。  
[学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 幼児とかかわるときの留意点を考える。
- 2 幼児に適した絵本を選び、読み聞かせの工夫点を考える。  
【読書活動】  
絵本をどのようにして読んだら伝わるのかを考え、練習する。
- 3 幼児に対して読み聞かせを行い、評価をしてもらう。
- 4 学んだことを交流する。



どの絵本が、読み聞かせにいいかな～



うまく伝わっているかな～？

授業のポイント

読み聞かせを通して、幼児とのよりよい関わり方を考える

- ゲストである幼児の発達段階に適した絵本の選び方や、読み方など、読み聞かせの工夫点を考える。
- 読み聞かせを通じたふれあいは幼児の想像力を育み、言語や情緒の発達を促すだけでなく、幼児と共に中学生も満足感や安心感が得られる活動であることに気付かせる。

## 家庭科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 読み聞かせを通して、幼児の心身の発達段階に応じたかかわり方を工夫する力
- 幼児の反応に合わせて、読む速さや表情などを工夫しながら表現する力

### 具体的な取組

- ペア学習として読み聞かせを行い、互いにアドバイスし合う。
- 他の生徒が読み聞かせをしているときの幼児の反応などを観察し、良かったところや工夫すべき点などを発表する。

## 日々の読書活動等の取組

### 身に付けさせたい力

- 幼児の発達段階に応じて本を選び、起承転結や表現の仕方を考える力
- 具体的な目的意識をもって、関連する本を多読する力

### 具体的な取組

- 様々な絵本に触れ、工夫の仕方、興味の引き方などを考えながら読む。
- 昔からの絵本と現在の絵本を比較しながら読む。

取組の連動

## 子どもの変容と学びの深まり

アンケート結果 (R3.6月)



アンケート結果 (R4.7月)



### 《子どもの感想》

- ・小さい子のために喜んでもらえそうな絵本を考えて選んだり、読み方を工夫したりするのがとても楽しかった。5歳児はもう文字も読めて言葉の理解もできるので、ダジャレの本を選んで一緒に笑って楽しみたいと思ったけれど、笑わせるのはなかなか難しかった。
- ・お互いに緊張していたけれど、目線の高さや言葉遣いも意識して接することができた。これからも幼い子と接する機会はあると思うので、その時はこの授業で学んだ読み聞かせを活かして仲良くなりたいと思った。

## 取組名 おすすめ本のポップを作ろう

### 《取組の流れ》

- 読んだ本の感想やおすすめポイント、キャッチフレーズをカードに書き、手に取りたくなるようなポップを作成する。
- 自分の書いたポップをもとにビブリオバトルを行う。グループで本の交流をし、チャンプ本を決定する。その後、クラスでチャンプ本を発表する。
- ポップは図書室に掲示し、目に留まりやすい位置に置く。また、図書新聞を発行し、チャンプ本の紹介をする。

### 取組のポイント

#### ポップを作成する

- 友達が紹介した本に興味を持ち、様々な本に触れ、読書の幅が広がるように支援する。
- 魅了するキャッチフレーズを考え、本のおもしろさを伝える。



#### ビブリオバトルをする

- 自分の感想や考えを持ちながらビブリオバトルを行い、魅力的な発表になるよう工夫して発表する。
- 聞き手はメモを取り、おすすめポイントをまとめ、チャンプ本を選んだ理由を伝えるようにする。

### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・「〇〇さんが紹介した本を、読んでみたい」と借りに来る生徒や、ポップを見て本を手にする生徒が増えた。

#### 課題

- ・ジャンルに偏りが出るため、新書などの本は少数であった。ジャンルごとの紹介を図る必要があった。

取組名 リーディングスキル向上の取組

《取組の概要》

- 毎週水曜の朝にタブレットを使って、リーディングスキル向上に向けた問題を解き、正しい読解ができているか確認する。
- 「キーワードは何だったのか」「正解の根拠は何なのか」などをペアトークすることで読解力の向上を図る。
- 結果を職員室に掲示し、発問や板書等の工夫につなげる。

リーディングスキルの問題を解いている生徒の様子



取組のポイント

- 何度も読むことで、正しい解答を選べるように指導する。様々な分野の問題を解き、読むことに対して苦手意識を減らしていく。

取組のポイント

- 文章のどこに注目するのか、問題文に正対できているかなどを話し合い、正しく読むことを意識させ、読解力の向上を図る。

文章のこの部分に注目して、読解するといいよ！  
もう一度チャレンジしてみよう！

解答後のペアトークをする生徒の様子



単元名

どうぶつのひみつをさがろう

教材名：ビーバーの大工事（東京書籍）

《単元の目標》

- 事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。 [知識及び技能]
- 動物について書かれた本や文章などを読んで、文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、調べたことを動物クイズにして伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 学習課題を確かめ、学習の見通しを立てる。
- 2 教材文から、ビーバーのダム作りの様子とビーバーの巣作りの様子について読み取る。
- 3 紹介したい動物を決め、調べる方法を知る。
- 4 調べるための本を選び、分かったことを書き出す。
- 5 自分が調べた動物について、クイズを作る。
- 6 「動物クイズ」を友達と出し合い、感想を伝え合う。

みんなこぞって本を取りに行きます。自席に戻るまでの間にも本の内容が気になり友達と情報交換をしています。



前に読んだところに付箋を貼っているのので、素早く必要なページを探し調べていきます。

授業のポイント

クイズを作ろうとする意欲が深い読みにつながる。

- 調べたことをもとにクイズを作ることは、より多くの知識と理解を必要とするため、自然と深い読みにつながる。
- 教室に本を準備しておくことで、授業中だけでなく休み時間にも調べる姿が見られた。本は近い場所があればあるほど、調べ活動の活性化にもつながる。

学級文庫の整理

- ・読んで楽しいどうぶつえんガイド
- ・くらべてみよう！どうぶつえんの赤ちゃんパンダ など

## 国語科の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 自分が知りたいことに関係のある大切な言葉や文に着目しながら本や文章を読む力
- 知りたいことに関係する事柄について粘り強く調べる力

### 具体的な取組

- 教科書教材での学習時に、大切な言葉や文の読み取り方を学ぶ。
- 様々な動物のクイズの本を読む。

## 日々の読書活動

### 身に付けさせたい力

- 知りたいことが書かれている本を選ぶ力
- 友だちとストレスなくコミュニケーションをとる力（語彙力）

### 具体的な取組

- 教室に「先生のおすすめコーナー」などの特設コーナーを設け本に興味を持たせると共に、興味が冷めないうちに読める環境を作る。
- 教室内に置く本は、偏りがないように様々なジャンルのものを置く。

読書活動の連動

## 子どもの変容と学びの深まり



気になることがあればすぐに索引で調べようとする姿が見られるようになった。

本に興味を持ち春夏秋冬それぞれの季節に応じた本を探して読書する姿も見られるようになった。お気に入りの本を手に「先生読んで」と言ってくる児童もいた。

### 《子どもの感想》

- ・本で調べるのが好きになった。
- ・本で調べるのが大変だったけど、調べるのが上手になった。
- ・知らなかったことも本を読んでいっぱい分かったことがあった。
- ・モモンガのことをよく知らなかったけど、本で調べたら4本の前足指があることを知った。調べてから、もっとモモンガのことを調べたいと思った。

体育科

単元名 けんこうな生活

教材名：体のせいけつとけんこう（東京書籍）

《単元の目標》

- 健康を保持増進するには、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活など1日の生活の仕方が深く関わっていること、体を清潔に保つことや生活環境を整えることが必要であることを理解することができる。 [知識及び技能]
- 健康な生活に関わることから、課題を見つけ、健康な生活を目指す視点から、図書を通して解決の方法を考えたり、調べたりしたことを伝えている。 [思考力、判断力、表現力等]
- 学習活動で取り組む中で、図書や調べ学習から健康な生活の大切さに気づき、健康な生活についての学習に進んで取り組もうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

《学習の流れ》

- 1 毎日の生活で、体を清潔にすることは、なぜ必要なのかを考える。
- 2 体の清潔と健康な生活との関わりについて考える。

【読書活動】

汗の働きや汗をそのままにしておくとうなるのかについて、教科書に掲載されていない情報を調べ、自分の考えを持ち発表する。

- 3 めあてのふり返しをする。

まずは一人で調べて自分の意見を持った後に、お互いの調べたことについて情報交換。ここで新たな疑問や発見があります。



自分が何の本から情報を得たのかをみんなに伝えた後に自分の意見を発表。

授業のポイント

本の内容と照らし合わせながら、根拠をもって発表させる。

- 本や資料から、体の構造や汗の仕組みについて知ることで、目に見えない体の仕組みについて自分事として捉えることができるように気付かせる。
- 本や資料から探し出したことをもとに発表することで、本や資料によって、書き方・構図・挿絵・表現の仕方などが違うことに気づき、本への興味・関心が高められるようにする。

「読書」リスト

- ・人のからだ⑤
- うんこ・おしっこ・いきと汗
- ・人のからだ
- など



## 体育科の読書活動につながる取組

### 身に付けさせたい力

- 本や図鑑から必要な情報を得る力
- 必要な情報を読み取る力
- 単に体のことだけを調べるのではなく、「食事・運動・睡眠」が大切であるところまで読み取る力
- 学んだことを今後の生活に生かす力



### 具体的な取組

- 本や資料で調べたことを分かったことを班や学級で交流する。
- 教科書に書かれていることと照らし合わせながら、本単元の内容を深めていく。

## 日々の読書活動等の取組

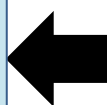
### 身に付けさせたい力

- 調べたいことから派生した疑問にも目を向け自ら本を探し選ぶ力
- 家族で学んだ事を共有し、日々の生活に活かす力
- 国語科の「目次や索引から調べる」を活用する力

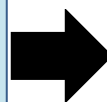


### 具体的な取組

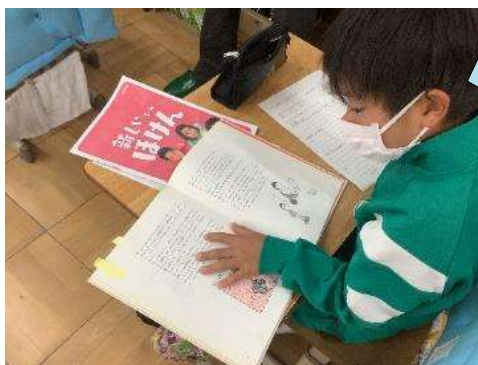
- 興味や学習意欲が高められるように、教室に学習単元に沿ったコーナーを設けて読書活動を進める。
- 学校司書や市内図書館に協力を得ながら、児童の発達段階に応じた本選びを行う。



取組の連動



## 子どもの変容と学びの深まり



必要な本がいつも教室にあることで自然と調べる習慣が身に付きます。

### 《子どもの感想》

- ・本や図鑑とインターネットの記事の内容を比べると、本や図鑑は、作者の言いたいことが挿絵を見ただけで伝わってきた。
- ・すぐにインターネットで調べられる良さもあるけれど、本の良さが分かった。
- ・汗の成分の中に含まれている脂を目にすることはなかなかできないけど、靴下の汚れを実際に見て、本や図鑑に書かれていることが本当であることが分かった。

## 取組名 ふれあい読書（親子読書）

### 《取組の流れ》

- ふれあい読書（親子読書）の日の設定…毎月第3土曜に実施
    - ①読み聞かせコース（家の方が読み聞かせをする）
    - ②聞いてねコース（子どもが読み聞かせをする）
    - ③一緒に読書コース（それぞれが好きな本を家族同じ空間で読む）
    - ④本の紹介コース（子どもが読んだ本を家の人に紹介する）
    - ⑤アイデアコース（家庭で考えた取り組み）
- 上記の5つのコースの中から好きなコースを選んで実施。

### 取組のポイント

#### 毎月1回の実施

- 毎月1回実施することで、保護者の過度な負担にならず継続して実施できる。
- 「第3土曜はふれあい読書の日」とすることで、忘れずに実施することができるので、習慣化することができる。

#### 選択肢を持たせる

- 5つのコースの中からそれぞれの家庭にあったコースを選んで実施するので、保護者の負担になりにくく、長く続けることができる。

### 子どもの変容と課題

#### 子どもの変容

- ・本を上手に読めるようになり、本を読む嬉しさ楽しさを味わうことで、自信を持てるようになった。
- ・親との距離が縮まり親子関係が改善された結果、落ち着いて行動できるようになった児童が増えた。

#### 課題

- ・ふれあい読書等を通じて、少しでも時間があれば本を読もうとする態度をいかに育てることができるかが課題。読書嫌いだからではなく、読む習慣がないために不読者になることが多い。小学生の時期に読書習慣を作っておくことは、将来本を読む習慣のある生活づくりにつながる。
- ・ふれあい読書で読む本の選定は、保護者個人で選定するには負担が大きいため、学校司書の協力を得て親子関係の深化につながるような本を紹介していく必要がある。

## 取組名 読み聞かせ動画の配信

### 《取組の概要》

- 図書委員、図書ボランティア、教員が作成した読み聞かせ動画を共有フォルダに保存しておく。
- 全校生は休み時間、テスト終了後、給食後など隙間の時間にタブレット端末で視聴する。

読み聞かせ動画の画面。はじめの本の紹介の時には本と人物が映ります。本文に入ると手とページをめくる様子のアップになります。



### 取組のポイント

- 読み聞かせの本は3～5分ほどで読める絵本が基本です。短時間で読み切ることが大切です。
- 読み手が伝えたい内容の本を読むのもいいでしょう。
- 読み聞かせの本は学校司書が常に20冊程度職員室に準備しています。本の選定に迷ったらそこから選びます。

ページをめくる様子を撮影することで、臨場感が増します。

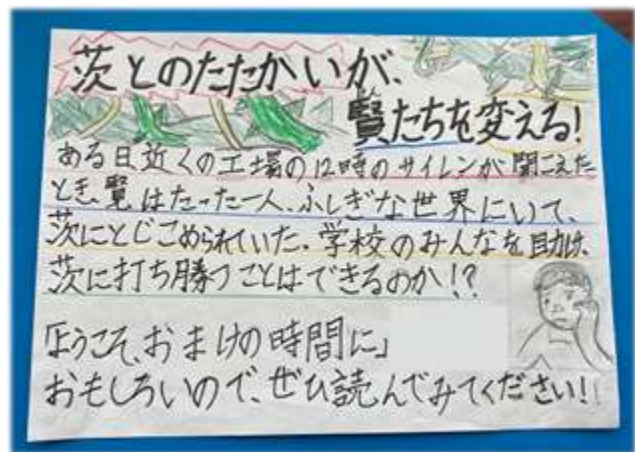
### 取組のポイント

- タブレットはいつでもすぐに隙間時間を使って動画を視聴できるように、机横の手提げかばんの中や机の中などすぐに手元から出せる所に保管しておくことが大切です。
- 小学生の時期に、読書習慣を作ることが大切です。

読み手から最後に「この本のシリーズは面白いのでぜひ読んでください」など、一言メッセージをつけると読書意欲が更に湧いてきます。

読み聞かせ動画を視聴する児童の様子





# 市町教育委員会 の実践

- 読書活動の推進に向けた支援
- 「人」台端末を活用した読書活動の推進

読書活動の推進に向けた支援

取組名 読書スタンプラリー

- 《取組の概要》
- スタンプラリーについて  
子どもたちが本を1冊読むごとに、市教育委員会が配布するスタンプラリーカードおよび読書記録カードを記録する。
  - 表彰  
→小学校1～3年生は、150冊で達成  
→小学校4～6年生は、100冊で達成  
スタンプラリーカードのゴールに到達すると、教育委員会が一人一人に向けて表彰状を作成し、各校へ送付する。
  - 達成状況  
R3年度は820人が達成した。これは市内小学生の18%におよぶ。



- 取組のポイント
- 各校の貸出し冊数や、スタンプラリーカードの提出状況を毎月調査する。  
→貸出し冊数や提出数が多い学校の取組を研修会で周知する。  
→各校に訪問指導する。

1人1台端末を活用した読書活動の推進

取組名 電子図書館を活用しよう

- 《取組の概要》
- R3年度より市立図書館で電子図書の貸出しを可能にした。
  - 市立小中学校向けに各学校を通じて、登録方法の案内チラシを配布。
  - 電子図書館のブックマークをアイコンとして児童生徒のタブレットにも表示し、利用の促進を図る。
  - 電子図書館の蔵書については、市立図書館担当者、学校図書館司書補助員で協議し、児童生徒の読みたい本や、学校の学習活動で利用しやすいものを積極的に購入する。



- 取組のポイント
- タブレットにもアイコンとして表示したことで、電子図書館の利用率が高まった。
  - 児童生徒の成果物（自作図鑑など）も電子図書館上に掲載することで、「表現の場」としても電子図書館を活用してい

## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 伊丹市立図書館「ことば蔵」との連携

#### 《取組の概要》

- 「夏休みすいせん図書」選定  
図書館教育担当者会と「ことば蔵」司書が発達段階に応じた「夏休みすいせん図書」を選書し、児童生徒に紹介
- 学校司書との連携
  - ・調べ学習用図書等の団体貸出
  - ・学校司書研修会における研修や交流
- ビブリオバトル中学生大会
  - ・市内6中学校の代表生徒が参加
  - 各中学校が国語科の授業で実施
  - ・講演会の実施
  - ・参加者40人

#### チャンプ本

伊丹市立笹原中学校  
2年生 荒川 葵咲さん紹介  
『今日は、お日柄もよく』  
(原田マハ・著)



#### 取組のポイント

- 学校図書館と市立図書館と連携することで、児童生徒を読書へ誘う環境づくりに向けて取り組むことで、読書活動の推進を図る。

## 1人1台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名 図書館教育担当者会・学校司書研修会の充実

#### 《取組の概要》

- 研修「読書活動におけるICT機器の活用について」を実施
- ICT機器を活用した読書活動の実践の交流
  - ・1人1台端末やHPを活用した図書委員や先生からのおすすめ本の紹介
  - ・電子黒板、書画カメラを用いた読み聞かせ活動等
- 1人1台端末を活用した学校図書館の活性化への方策等の協議・交流

#### 取組のポイント

- 読書活動の推進における1人1台端末の活用方法やその効果について、各学校の実践等を共有し、取組を広げていく必要がある。
- 図書館教育担当者や学校司書の理解や資質向上が求められる。



## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 読書活動推進教員を中心とした研修会の実施

#### 《取組の概要》

- 研修会テーマ  
子どもも大人も楽しんで取り組む読書活動ををめぐして
- 対象  
学校司書 市内教職員
- 主な内容
  - ①読書活動推進計画について
  - ②子どもたちが楽しく学べる学校図書館づくりについて
  - ③子どもたちが進んで活動したくなる学校図書館運営について

#### アンケート

- ・読書活動を学校全体で推進できるように、協力していきたいと思います。
- ・学校司書と協力しながら、子ども達が本に親しむきっかけを作っていけたらと思います。



#### 取組のポイント

- テーマについてグループ協議をする時間を設定し、読書活動推進教員が助言を行った。
- 意見交流することで、連携を深めるきっかけになり、市内の読書活動の推進の活性化につなげる。

## 1人1台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名 電子図書館の利用を推進する取組

#### 《取組の概要》

- 中央図書館の学校支援についての研修を行った。
- 対象  
学校司書 市内教職員
- 内容
  - ①団体貸出による読書支援
  - ②かわにし電子図書館の利用による読書支援

#### アンケート

- ・中央図書館の団体貸出しは、ぜひ利用したいと思います。
- ・電子図書館を、生徒のタブレットで閲覧できるのは大変助かります。選書に余裕が生まれます。



#### 取組のポイント

- 新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、中央図書館が取り組んできた学校支援について情報共有する。
- 学校と地域の図書館との連携を深める。



## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 公共図書館と学校園のつながりを生かして

#### 《取組の概要》

- 図書館教育担当者会や児童クラブで、「図書館見学」や「おはなし会」、「団体貸出制度」の案内と周知
- 司書が学校へ出向いて、「おはなし会」や「読み聞かせ」、「ブックトーク」を実施  
→読書の楽しさを味わったり、興味関心を引き出したりする
- 学校から児童が図書館を訪問し、司書による「図書館たんけん」を実施  
→図書館のよさや工夫について知る
- 学校からの依頼により、授業内容に基づいたテーマの本を収集し、貸出を行う  
→学校図書館にはない資料を提供することで、調べ学習を支援



#### 取組のポイント

市立図書館と連携した取組をすすめることで、児童生徒にとって、図書館だけでなく、本や読書が身近なものになる。

## 一人一台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名 デジタル版「読書手帳」の活用

#### 《取組の概要》

- 読書活動推進校で取り組んでいる「読書手帳」のデジタル版のデータを、「加古川市教育ポータルサイト」に掲載。
- 市内の教職員の端末からダウンロードし、各学校の実情に応じ、修正、変更して活用できる。
- 市内の児童生徒の一人一台端末を活用することができる。

#### 取組のポイント

- 市内全ての教職員の端末からダウンロードが可能で、各校の実情に応じて変更して使用することもできる。
- 児童生徒の一人一台端末を活用するため、進級や進学しても、読書記録として蓄積することができる。



## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 図書館を使った調べる学習コンクール

#### 《取組の概要》

- 応募テーマ  
日常の素朴な疑問や郷土の歴史等、図書館を使って調べた内容
- 対象  
地域に在住・在学・在勤の小学生～大人
- 授与賞  
町長賞、教育長賞、図書館長賞  
審査委員会賞、ジョセフ・ヒコ賞  
奨励賞、佳作
- 応募方法  
①テーマを決める  
②本で調べる  
③まとめる  
④図書館へ応募する

#### 入選作品例

「夏の王様スイカずかん -おにわでスイカをそだてたよ!-」  
「食虫植物は超能力植物!？」  
「9さいのぼくからみた選きよ」  
「大中遺跡徹底調査!～調べて・つくって・竖穴住居～」



#### 取組のポイント

- 町立図書館と連携し、対象を小学生から大人まで広げて実施する。  
→地域全体や家庭内における読書活動の活性化

## 一人一台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名 町立電子図書館を活用した読書活動

#### 《取組の概要》

- 子ども読書推進計画に則り、全小中学校において読書の時間を設定する。
- 朝の読書、昼の読書など数十分程度の読書時間を継続確保して、読書に親しませる。
- 学校図書館および電子図書館の中から、自分スタイルで読書を進める。
- 各教科の調べ学習や国語科での並行読書材として電子書籍を活用する。



#### 取組のポイント

- 自分スタイルを見つけて、読書活動に取り組むことができる。
- 学校図書館同様に町立電子図書館を活用した調べ学習や並行読書材として活用。
- 町立図書館と連携した読書活動を推進。

読書活動の推進に向けた支援

取組名 児童生徒や教員のリクエスト本を提供する取組

《取組の概要》

- 「学級文庫」  
貸出可能冊数：1クラス 50冊まで  
貸出期間：1学期間
- 「スポット貸出」  
貸出可能冊数：1クラス 20冊まで  
貸出期間：2週間

※スポット貸出の例

- 小1：20冊（自動車の本）
- 小2：40冊（2年生が主役の本）
- 小3：40冊（すがたを変える大豆）
- 小4：60冊（伝統工芸の本）
- 小5：40冊（伝記【生き方・考え方】）
- 小6：17冊（宮沢賢治の本）
- 中学：20冊（オリンピック・パラリンピック）等



取組のポイント

- 毎月、三木市立図書館から学校に新着リストや貸出申込書を送付し、活用を促している。授業で使用したり、児童生徒が自由に読んだりする本を、児童生徒のリクエストや希望選書内容をもとに図書館司書が選定し提供することで、本への興味・関心が高まり、読書の幅が広がっている。

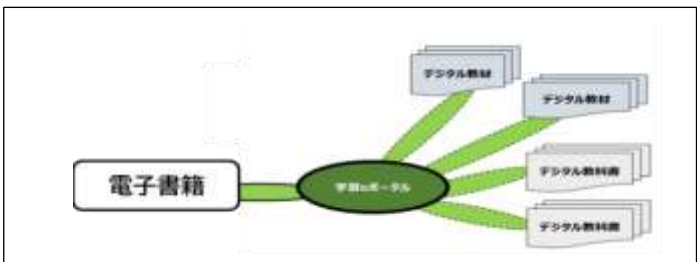
→地域全体や家庭内における読書活動の活性化

1人1台端末を活用した読書活動の推進

取組名 学習eポータル内に電子書籍を導入した取組

《取組の概要》

- 児童生徒の1人1台端末で普段から活用している学習eポータル内に、無償配布版の電子書籍を導入した。
- 児童生徒はタブレットでweb閲覧する際は、必ず学習eポータルに入るため、いつでも、すぐ、電子書籍を見たいと思った時に、読書することができる。
- 無償配布版ではあるが、数や種類が一定程度揃えられており、電子書籍で活字を見る良い機会としても活用を進めている。



取組のポイント

- 電子書籍の場合、検索することですぐに見たいと思う書籍を探し出せることや収納場所の必要がないこと、文字を拡大縮小できること等メリットが多い。
- 電子書籍の良さと紙媒体の良さを見学児童自身が考え、使い分けして、読書活動を進められるようにしていく。

## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名

図書館資料を使った調べ学習ワークショップ  
～学校司書と連携した「調べ学習」支援～

#### 《取組の概要》

##### ○概要

市立城内図書館で実施し、各校の図書担当者と学校司書が共に参加し、実際に調べ学習を体験することにより、自校での学校司書と連携した「調べ学習」支援につなげる。

##### ○対象

市立小学校図書館担当者及び学校司書

##### ○講義・演習（講師：城内図書館司書）

##### ①図書館における調べ学習

「教科書を活用して情報収集力を身に付けよう」

##### ②図書館を使った調べ学習の体験

- ・テーマを決める
- ・テーマと比べるもの、広げる方向を考え、2冊目の本を探し、2つの情報を書き出す
- ・2つの情報からテーマに関する自分の考えをまとめる

##### ○「ひめじ図書館を使った調べ学習コンクール」



#### 取組のポイント

- 自分の考えについて、結論は独断でかまわない。ただし、自分なりの理由を述べること。  
例「テーマ『・・・』について、○○と▲▲がわかりました。2つの情報から私は◇◇と考えました・・・」

## 1人1台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名

学校司書研修「学習・情報センターとして学校図書館ができること  
～1人1台端末を活用した読書活動の取組紹介～」

#### 《取組の概要》

##### ○市立小中学校の実践事例を紹介 (姫路市は、「Chromeブック」を使用)

##### ①ICTを使った学校司書による学習支援

- ・学校図書館サイト
- ・サイトを使ったブックトーク
- ・リモート読み聞かせ
- ・生徒の制作中のスライドに、コメント機能を使ったアドバイス
- ・リモートビブリアバトル

##### ②図書委員会の活性化

- ・「スライド」で図書通信づくり  
図書委員、先生のおすすめの本
- ・「クラスルーム」で宣伝
- ・「フォーム」で読みたい本アンケート（集計・集約）
- ・図書委員への連絡

読み聞かせ



アンケート



図書だより



#### 取組のポイント

- 子どもと本とをつなげる道具がICT
- 教職員との連携が必須
- 「わくわく」の先に、学びがある
- 「調べる」（検索）に加え、「まとめる」「伝える」3つの機能

一人一台端末を活用した読書活動の推進

取組名 タブレット端末に「本のたからばこ」を掲載

《取組の概要》

- 市内小学校において取組を進めている家庭学習を支える補助教材「学び帳」に『子どもたちに読んでほしい本』リスト「本のたからばこ」を掲載。
- リスト作成は、市立図書館、学校図書担当と連携し、専門的な知見を取り入れた子どもたちにおすすめの本を選書した。
- 「本のたからばこ」は低学年・中学年・高学年の3段階にレベル分けし、選書を行い、児童生徒の読書意欲を高める紹介文を記載している。
- 「本のたからばこ」は市内で共有できるGoogleドライブに保存し、冬季休業中等のタブレット端末の持ち帰りの際に閲覧できるようにした。



取組のポイント

- 『子どもたちに読んでほしい本』のリストをタブレット端末で閲覧できるようにすることで児童生徒の選書に役立てる。

読書活動の推進に向けた支援

取組名 たくさんの新聞にふれよう

《取組の概要》

- 文部科学省が策定した第6次「学校図書館図書整備等5か年計画」を受け、本市においては、新聞配備の予算化を行った。
- 小学校においては、一般紙1社、子ども新聞1社、中学校においては一般紙2社の購読希望を取り、複数紙配備を行った。
- 各校、児童生徒の目につきやすい場所にコーナーを設けるなどして、新聞を日常的に読む環境を整えている。



取組のポイント

- 新たな新聞が届くと、古い新聞は図書室に移し、多くの児童生徒が新聞にふれられるようにする。
- 記事の内容に合わせて「○○の授業で使える新聞」というように分類したコーナーを設け、授業で新聞を活用できるようにしている。

## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 公立図書館、学校司書と連携した図書室の環境整備

#### 《取組の概要》

- 「図書館教育担当者会」を定期開催し、各校図書館教育担当者、学校司書、町立図書館が情報交換を行う。
- 配架や選書についてのアドバイスを町立図書館職員、学校司書から得る。
- 小学校・中学校の担当者が互いに、図書室の環境整備や読書活動推進の取組を共有して勤務校へもち帰る。
- 学校司書（各中学校へ配置）を活用し、図書室の配架や掲示などの工夫を行う。  
例)・おすすめの本のコーナー  
・NDC分類に基づいた配架  
・季節の飾り、詩や文章の一節を掲示
- 町内小中学校の図書室が、共通の視点をもちつつ、各校で特色ある環境整備を行う。



#### 取組のポイント

- 各校担当者、町立図書館、学校司書が情報交換を行う会を定期的に開く。
- 配架や選書などについて、町立図書館職員などのアドバイスを参考に各校図書室の環境整備を行う。

## 一人一台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名 オンラインを活用した読み聞かせの推進

#### 《取組の概要》

- Google Meet を利用して、学校司書やボランティア等による読み聞かせを実施する。
- 複数の教室に対して、同時に行うことにより、多数の児童生徒を対象に実施することができる。
- 読み手や他教室と感想の交流を行うことも可能である。
- 活動のねらいや状況に合わせて、スクリーンに投影したり、個人の端末で視聴させたりする。
- 本の提示の仕方、撮影の仕方など、推進校の実践事例を町内で共有し、参考にしながら、各学校で方法を工夫して行う。
- 読み聞かせに限らず、一人一台端末を活用した読書活動や図書の利用について、各校からの実践事例報告を町内で共有し、今後も取組を推進する。



#### 取組のポイント

- 同時に複数の教室で読み聞かせを実施することができるため、一度に多数の児童生徒が参加できる。
- 端末とオンライン環境があれば、手軽に行うことができる。

## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 豊岡市推薦図書を選定と周知

#### 《取組の概要》

- 乳幼児、小学校低学年、小学校高学年、中学校と発達年齢に合わせて選書している。
- 市立図書館司書と幼稚園・小学校・中学校の教員が選定委員となり、推薦図書を選んでいる。
- 推薦図書一覧を毎年度はじめに園児児童生徒に配布したり、市教育委員会のホームページに掲載したりして周知を図っている。
- 推薦図書例  
幼稚園：『せんろはつづく』  
小・低：『わんぱくだんのひみつきち』  
小・高：『ドリトル先生アフリカゆき』  
中学校：『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』



#### 取組のポイント

- 但馬・豊岡にゆかりのある話・人・自然や生き物など、「地域に関する本」の推薦図書もある。  
『但馬の民話』  
『こうのとりのカータ』等

## 市立図書館と小学校との連携

### 取組名 図書館リーダー育成研修会の実施

#### 《取組の概要》

- 市立図書館の司書・職員が小学校の図書委員会の活動を支援した。
- 取組内容は、おすすめ本のポップづくり指導、読み聞かせ指導、選書のアドバイス、図書室イベントの補助など。
- 市立図書館の本館と5つの分館が、それぞれの近隣6小学校と取り組んだ。
- 児童が図書館を訪れたり、図書館司書・職員が学校を訪れたりして活動した。

#### 取組のポイント

- 図書館が図書委員会の児童に取組を提案するだけでなく、児童からの希望を聞きながら取組内容を決めた。そのため、活動内容・方法が一律でなく、学校によって特色が出ている。



おすすめの本のポップづくりの様子

## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 ステーション図書館プロジェクト

#### ★「無人駅待合室に押し本の図書館」

##### 《取組の概要》

- 無人化された JR 香住駅待合室の壁一面の本棚を「図書館」として使用する。
- 香美町が約 1400 万円をかけて改修。内装を木目調で統一。窓に面したカウンター(8席)や円卓4台、無料 Wi-Fi を完備した。
- これまでは、壁一面に設けられた本棚の一部に子ども向けの本が置かれているだけの状況であった。
- 11/19に推薦本を並べるイベントを開催した。
  - ① 薦めたい一冊を持ち寄り、本と一緒に飾る「紹介ポップ」と「代書板」の制作をした。
  - ② 代書板の側面に借りた日と返却予定日、メッセージが書き込める。
- 旅行者でも次に訪れる日を書き込めば利用可能。香美町とのつながりを創生。



##### 取組のポイント

- 香美町 3 つの町民運動「読書・あいさつ・体力づくり」の一環。
- 教育委員会と企画課、及び一般社団法人と連携。
- JR 山陰線の利用促進の一契機としても期待。

## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 外部機関、地域ボランティアとの連携・協力

##### 《取組の概要》

- 学校園でのブックトーク授業への町図書館司書の派遣。
- 小・中学校へ、推薦図書を出し出す(2カ月単位)「ほんわか文庫」活動。
- 中央公民館との連携による読み聞かせグループ(7団体)の協力。
- 図書館司書や町教委担当、各グループ等との情報交換会。
- 絵本の読み聞かせ研修会の実施。
- 公募による学校図書館ボランティアとの連携による、図書室整備等の協力、支援。
- 小・中学校図書館教育担当者会および研修会の開催。

##### 取組のポイント

- 授業や図書館司書から学んだ中学生が、ブックトークや読み聞かせを校区の小学生を対象に実施する。
- 校長先生や、国語科以外の教員による読み聞かせを定期的に行う学校も生まれた。





## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 読書マイスターの認定

- 《取組の概要》**
- 児童生徒の読書意欲を喚起し、読書習慣の形成を図るため、読書量の多い児童生徒を読書マイスターに認定する。
  - 読書実施期間  
10月～12月の3ヶ月間
  - 対象  
小学校1～3年50冊以上、小学校4～6年25冊以上、中学生10冊以上の読書をした児童生徒
  - 読書マイスターは『みんなにすすめたい一冊の本』の紹介ポップを作成する。  
丹波市立図書館（6館）に紹介ポップを展示し、市民に周知する。



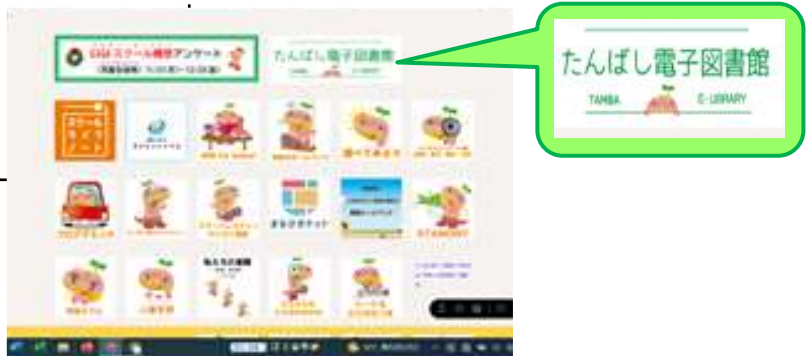
- 取組のポイント**
- 市立図書館と連携し、児童生徒の読書の成果を地域に発信することで、地域全体や家庭における読書活動の活性化を図る。

## 1人1台端末を活用した読書活動の推進

### 取組名 『たんばし電子図書館』の活用

- 《取組の概要》**
- 令和4年10月より『たんばし電子図書館』がスタートした。児童生徒の学校での活用を推進するため、家庭に利用の登録を呼びかけるとともに、1人1台端末の児童生徒用学習ポータルサイト（学びのサイト）に、『たんばし電子図書館』のホームページへのアイコンを表示している。
  - 電子書籍を活用した朝読や家（うち）読の推進に向け、丹波市情報教育研修会において、各校での取組の啓発を図る。

- 取組のポイント**
- 学校、家庭を問わず、様々な場所や時間を活用した読書が可能となる。電子書籍の活用により、児童生徒の読書の幅を広げることが期待できる。



## 読書活動の推進に向けた支援

### 取組名 「読み聞かせ」のススメ

#### 《取組の概要》

- 外部講師による授業  
全小中学校において外部講師を招聘し、読書活動（絵本の読み聞かせ、ブックトークなど）を取り入れた授業を実施した。
- 外部講師による研修  
全小中学校において、読書活動についての教職員研修を実施した。
- 「読み聞かせ」活動の推進
  - ・全教職員 ・地域ボランティア ・ALT
  - ・異学年間の読み聞かせ
  - ・異校種（小中）間の読み聞かせ
  - ・家庭での読み聞かせ
  - ・読み聞かせしたい本を職員室に置き、教職員間で情報共有をする（学校司書が選書）
- ◎「読み聞かせ」活動の取組により、本好きの児童生徒の増加や学習・生活環境づくりなどに成果が見られる。



#### 取組のポイント

- 市の読書活動推進員が中心となり、市内全小中学校で同じ取組みを進めている。
- 学力、情操、対人関係等の基礎を養うために「読み聞かせ」活動を推進している。

## オンラインを活用した読書活動の推進

### 取組名 子どもが集まる魔法の図書館プロジェクト ～オンライン図書館見学～

#### 《取組の概要》

- 市立図書館と小学校をオンラインでつなぎ、図書館見学を実施した。
- 内容
  - (1)図書館ツアー(オンラインで館内を案内)
  - (2)質問タイム(児童からの質問に職員が回答)
  - (3)ブックトーク・読み聞かせ
  - (4)振り返り
- リアルタイムでつながっているため、児童生徒の反応に合わせて図書館見学を進めることができた。
- 本を読むことへの興味につながった。



#### 取組のポイント

- 移動の時間や手段を考える必要がなく、市立図書館と学校をリアルタイムでつなぐことができる。
- 臨場感のある双方向のやり取りができる。
- 市立図書館と連携し、市内全校に取組みを広げていく。

#### 児童の感想

- ・思ったよりたくさん本があってびっくりした。
- ・たくさん本を読んでもらうために工夫していることが分かった。

#### 市立図書館職員の感想

- ・市立図書館を知ってもらおうよいきっかけになった。
- ・「今度行きたい」といううれしい感想があった。



《令和3・4（2021・22）年度 読書活動推進校一覧》

芦屋市立朝日ヶ丘小学校

川西市立けやき坂小学校

播磨町立蓮池小学校

姫路市立城東小学校

太子町立太子東中学校

香美町立香住第一中学校

南あわじ市立松帆小学校

伊丹市立北中学校

加古川市立加古川小学校

三木市立三木東中学校

たつの市立越部小学校

豊岡市立三江小学校

丹波市立青垣中学校

発行 兵庫県教育委員会〔令和5（2023）年3月〕

連絡先 兵庫県教育委員会事務局義務教育課

〒650-8567

神戸市中央区下山手通5-10-1

TEL078-341-7711（代表）